

# こども宅食利用家庭に関する調査結果

2021年8月31日



こども宅食応援団

# 目次

## 1. 事業について

- イン트로ダクション
- こども宅食とは

## 3. サマリー

## 2. 調査概要

- 目的
- 調査の骨子
- 実施概要

## 4. 集計結果

- 利用家庭の実態に関する設問
- QOLの変化に関する設問
- 受援ハードルの低下に関する設問
- 支援による変化に関する設問

# イントロダクション

こども宅食応援団は、2021年6月にこども宅食実施団体の全国的な活動状況および成果に関する調査報告書を公開しました（発表資料：**こども宅食の実施実態に関する調査**、<https://hiromare-takushoku.jp/210611report>）

この調査と同時期に、こども宅食を利用するご家庭に事業で期待されるような良い影響を与えられているのか、事業として成果を出せているのかを明らかにするため、全国の実施団体を通じて利用家庭の実態調査も実施致しました(本調査)。

本調査の結果、**こども宅食ご利用家庭の約8割のご家庭は世帯年収が300万円未満**であり、一部には生活満足度が特に低いご家庭がいらっしゃるということがわかりました。また、**社会資源（行政サービスやフードバンクやこども食堂等）とのつながりが希薄である、各種の支援を受けることに対して様々な心理的、環境的な制約を持っている**といった要因で、「**支援につなぐりにくいご家庭**」が一定の割合で地域に存在することが今回の調査を通じてわかりました（これは、地域で家庭の支援をされている団体のみなさんが肌で感じていたことを裏付けする結果となりました）。また、上述のようなご家庭に対して、**こども宅食は生活面だけでなく、精神面においても様々な前向きな変化を与えている**ことが明らかになりました。

今回の調査結果を受けて、回答者の地域的偏りおよび少なさはあるものの、こども宅食という支援方法に一定の有用性があることが明らかになったと考えています。こども宅食応援団では本調査の結果を踏まえ、さらなる事業の普及と質的向上を目指して、今後も活動を進めていきます。

## こども宅食とは…

定期的に自宅に食品を配送することをきっかけに家庭とのつながりをつくり、関係性を築きながら見守っていきます。ご家庭の変化をいち早く見つけ、様々な専門的支援につないでいくことで、ご家庭の困りごと、つらい状況が悪化するのを予防していきます。

### 家庭とつながる

自宅に直接食品を届けるので、**支援を受けていることを周囲に知られたくない家庭とつながる**ことができる。また、仕事と家事で多忙な世帯や、コロナで外出が難しい世帯にとっても**宅配型は利用しやすい**。

### 関係性を築く

メールやLINEでの連絡や配送時の受け渡しを通じて、**利用家庭と定期的な接点を持つ**ことができる。定期的なやり取りを通じて、**相談ができる関係性をつくる**ことができる。

### 支援につなぐ

定期的に接点を持ち、関係性を深めていくことで、**より多くの情報を得やすくなる**。必要な情報を集めることで、**家庭の変化や問題の予兆に気づき**、支援につないでいく。

# こども宅食を届けたい家庭

こども宅食応援団に届いたご家庭の声です。さまざまな事情で支援を受けることが難しいご家庭に対しては、窓口での相談や情報提供だけでは支援につなげるのが難しい現実があります。

- 貧しい、生活が苦しいというのは周りに知られたくなくて…
- 病気なのに、なんでこどもを産んだのって言われそうでいや。
- 難病で恥ずかしい病気だから知られたくないんです。かっこ悪い。  
この辺の民間の支援団体につなぐとかしないでください。
- 保育園のママ友が区役所で働いていて、自分の状況を知られるのが怖い。
- 昔、支援を受けたときに嫌な思いをしたことがあって…  
できるだけ関わりたくないんです。
- 相談に行きたくても、ガソリン代や駐車場代を出すお金の余裕がないんです。
- 仕事を掛け持ちしながら子育て。夜遅くに帰ってきて、平日に窓口に行く余裕なんかない。

困っていても（支援ニーズが分かってても）、  
支援には簡単にはつながらない！

# 支援ニーズ

（家庭の困りごと）



役所が嫌い！

どうしていいかわからない

日本語や漢字の読み書きがニガテ...

相談したいけど家族に反対される

相談窓口に行く余裕がない

支援を受けるのは恥ずかしい...

困っていることを人に知られたくない

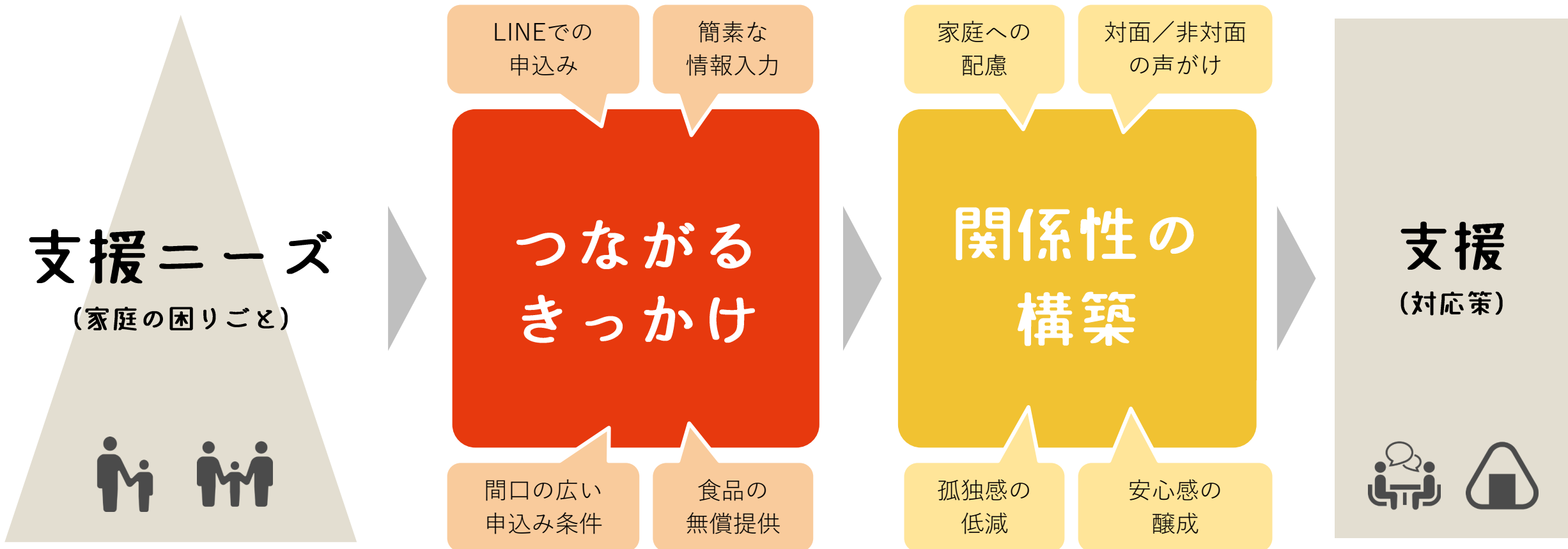
# 支援

（対応策）



# 事業コンセプト

つながるきっかけと関係性の構築をプロセスに入れることで、  
つながりにくい家庭が支援を受けやすい環境をつくる



# 地域におけるこども宅食の位置付け

こども宅食を「**専門的支援へのつなぎ**」として位置づけることで、ご家庭が支援を受けるための心理的、物理的なハードルを下げ、**既存の専門的支援によりつなげやすくしていくことができる**と考えています。



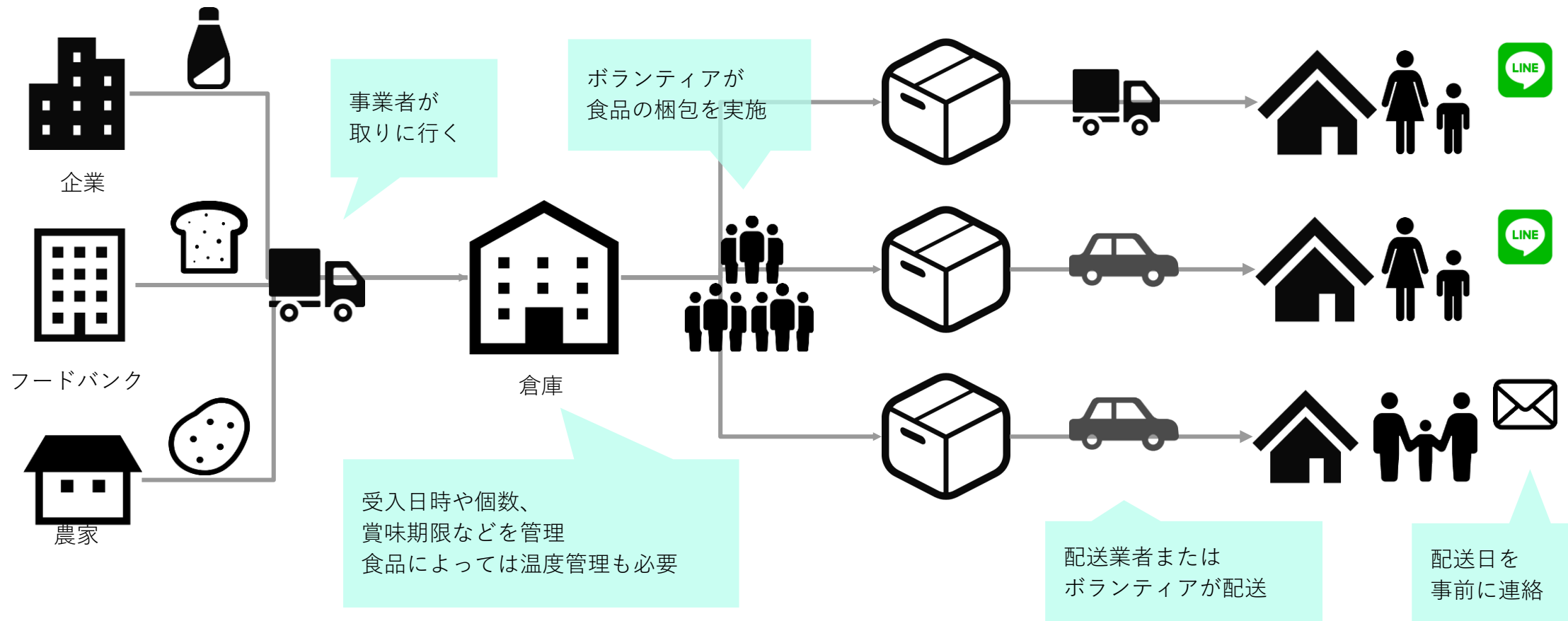
支援とつながりにくい家庭とつながるための**きっかけづくり**、つながった後に家庭と信頼関係を築いていくための**コミュニケーション**、多様な課題、事情を抱える家庭への**様々な配慮**など、実施団体の方々は個別性の高い家庭と向き合い、日々現場で工夫をしながら事業を推進されています。



# 食品配送の流れ

農家や企業、フードバンクから寄付で頂いた食品を倉庫に保管。

配送前に梱包して個別に配送するのが基本の流れ。



# 地域での食品配送の様子

食品確保・保管



配送準備



パッキング



配送



# 調查概要



以下の4点を明らかにすることを目的として調査を実施した。

1

どのような属性、特徴の家庭がこども宅食を利用しているのか？

2

こども宅食の利用によって、利用家庭の食生活は楽になっているか？  
QOLに改善は見られるか？

3

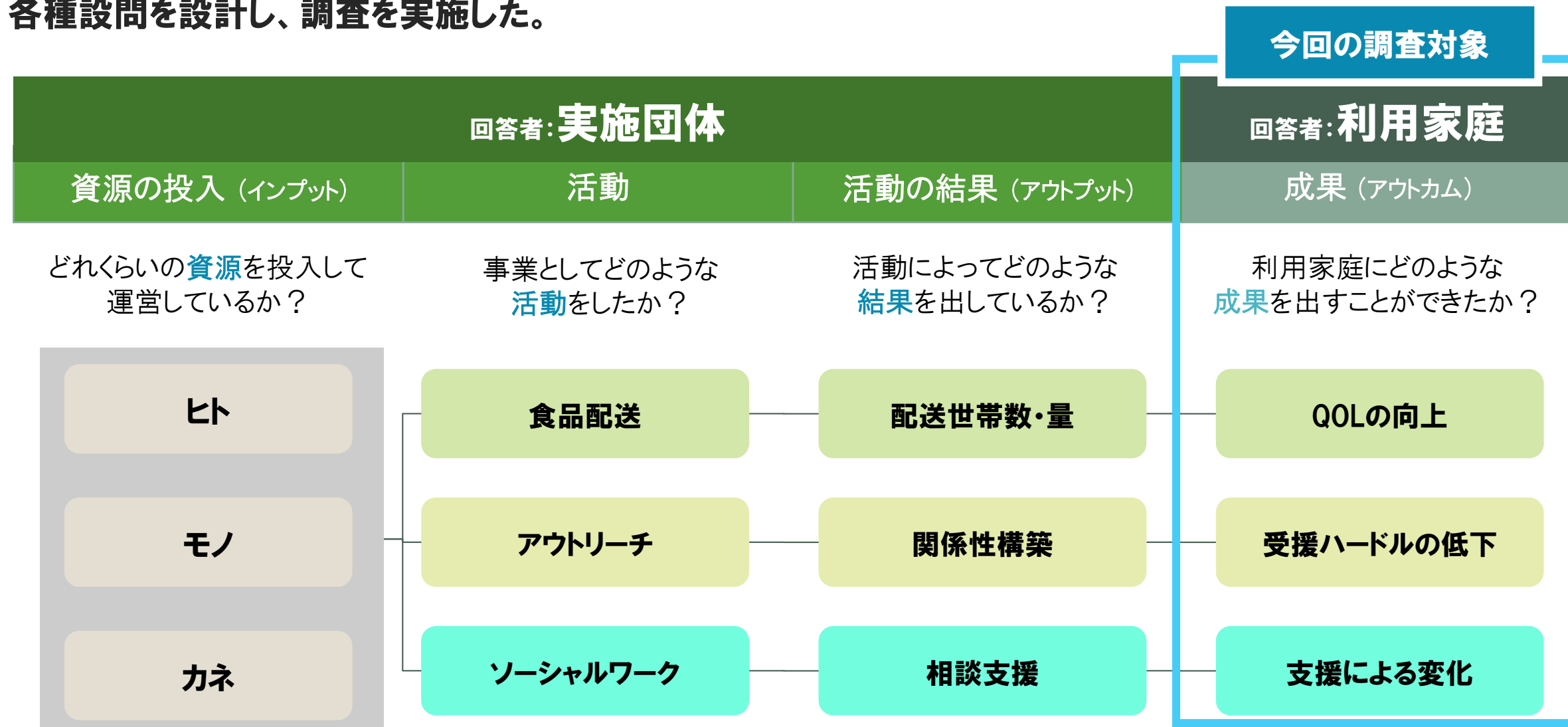
こども宅食の利用を通じて、利用家庭の気持ちに変化は見られているか？  
支援を受けることに対する抵抗感は減っているか？

4

実際に支援を受けた家庭には、生活に前向きな変化が生まれているか？

## 本調査の骨子

今回の調査では、食品配送、アウトリーチ、ソーシャルワークの3つをロジックモデルの構成要素として考え、各種設問を設計し、調査を実施した。



※ロジックモデルの考え方については、[日本財団「ロジックモデルの作り方」](#)等を参照ください。

## アンケート調査の実施内容

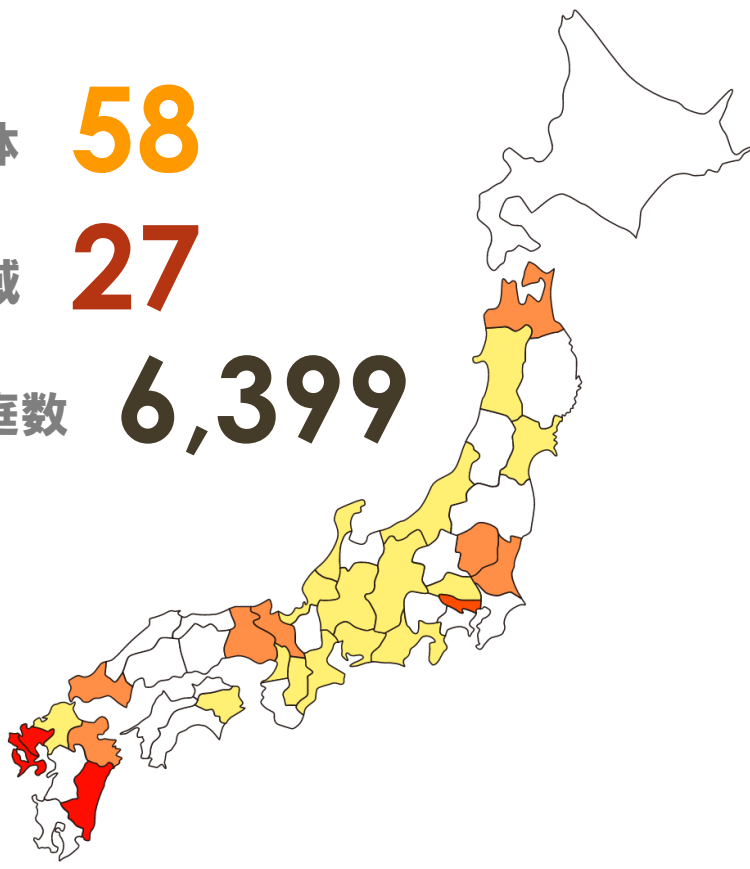
<b>実施日時</b>	<b>2021年3月8日～4月30日</b>
<b>実施方法</b>	<b>Questant(マクロミル)を利用したWebアンケート</b> ※アンケートについては、実施団体を通じてLINE等で利用家庭に協力を依頼する形とした ※配送のタイミングや利用家庭との関係性を鑑み、アンケートの協力依頼は任意とした
<b>実施者</b>	<b>こども宅食応援団、認定NPO法人フローレンス</b>
<b>対象者</b>	<b>現在、こども宅食事業を実施している全国の民間団体・自治体の事務局が つながっている利用家庭</b> ※国の「支援対象児童等見守り強化事業」でこども宅食型(お弁当配送型含む)の事業をしている団体を含む
<b>回答数</b>	<b>345</b>
<b>回収率 (推計値)</b>	<b>5.4%</b> ※「こども宅食の実施実態に関する調査報告」において、 実施団体がつながっている家庭として算出した6,399世帯を母数にした場合の推計値

## 回答者数と回答地域

今回の調査は実施団体を通じて利用家庭に回答を依頼をする、という形で実施した。一方で、事業状況や利用家庭との関係性を考慮し、任意での依頼としたため、結果的に回答数は5.4%にとどまった。

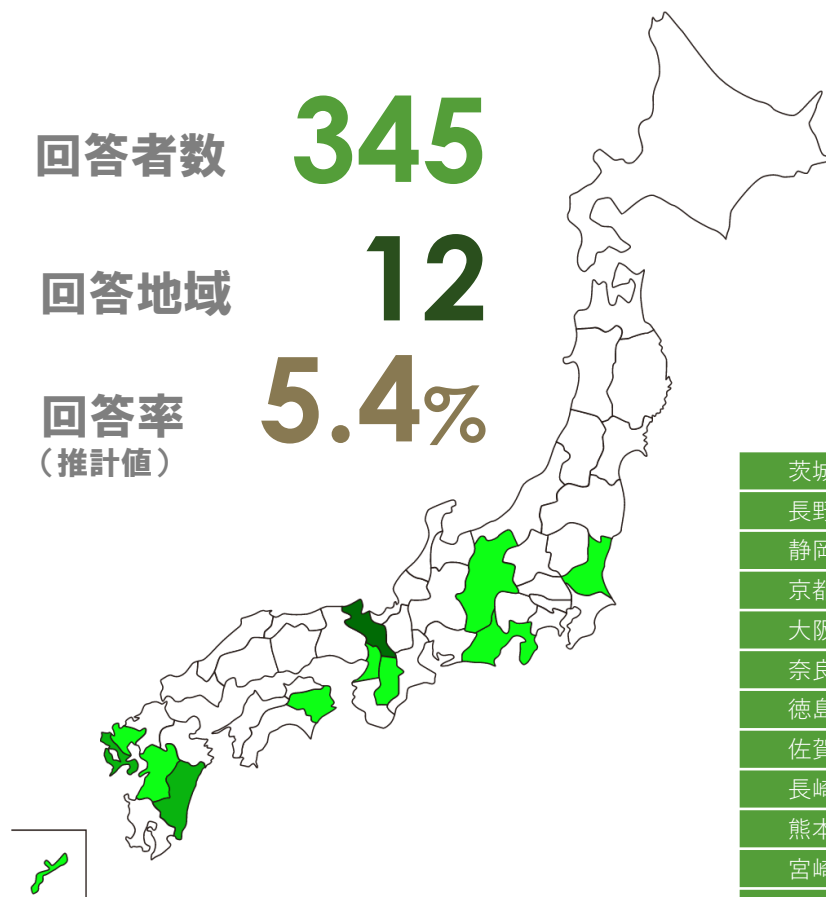
### こども宅食実施団体・地域の概要

実施団体 **58**  
 実施地域 **27**  
 利用家庭数 **6,399**



### こども宅食の利用家庭向け調査(本調査)

回答者数 **345**  
 回答地域 **12**  
 回答率  
 (推計値) **5.4%**



	(%)
茨城県	5.3
長野県	2.6
静岡県	0.9
京都府	45.2
大阪府	2.9
奈良県	1.7
徳島県	0.9
佐賀県	1.4
長崎県	10.4
熊本県	3.8
宮崎県	19.7
沖縄県	5.2

左図:こども宅食応援団「こども宅食の実施実態に関する調査報告書 全国初の実態調査から見えてきた、事業成果と今後の課題」

サマリー





# 1

どのような属性、特徴の家庭がこども宅食を利用しているのか？

## 世帯構成

ひとり親家庭が51.0%、それ以外の家庭が49%とほぼ同数となっている。

## 子どもの人数 年齢

子どもが2人以上いる家庭が68.7%、3人以上いる家庭が32.8%と多子世帯の割合が顕著に高い（全国平均は14.2%※）。年齢で見ると小学生以下の子どもがいる家庭が多い。

※平成30年国民生活基礎調査の概況（厚生労働省）

## 世帯年収 家計状況

世帯年収300万円未満の家庭が78.9%、赤字で家計をやりくりしている家庭が39.4%と、経済的に困窮を抱えていることが推察される。

## 食に関する課題

栄養バランスの偏り、食事の品数の少なさといった食事の内容だけでなく、料理が苦手、栄養バランスや調理方法がわからないなど調理にも課題を抱えている。

## 食品に 関するニーズ

お米やパンなどの主食、日用品、生鮮食品や掃除用品など生活必需品のニーズが高い。お弁当や惣菜よりも喫食頻度の高い食品や保存性の高い食品の方がニーズが高い。

## 生活満足度

生活満足度は平均で61.5点。点数のばらつきが大きい。30点以下が1割程度存在しており、コメントを見ると、特に生活が厳しいことが伺える。

2

こども宅食の利用によって、利用家庭の食生活は楽になっているか？  
QOLに改善は見られるか？

こども宅食は利用家庭のQOLの向上や食生活の改善に貢献している。

気持ち

こども宅食の利用によって  
気持ちが豊かになった

82.6 %

「地域や社会とのつながりを感じるようになった」という回答も多い

子ども

笑顔や会話が増えたなど  
子どもに前向きな変化があっ

72.8 %<sup>た</sup>

こども宅食の利用によって節約  
できたお金が子どものQOLの改  
善に使われている

食事

食事の回数や内容に  
何らかの改善が見られた

86.4 %

献立を考えるのが楽になった、レ  
パートリーが増えたなど、調理の負  
担も減っている。

# 3

こども宅食の利用を通じて、利用家庭の気持ちに変化は見られているか？  
支援を受けることに対する抵抗感は減っているか？

**事業を通じて、実施団体との信頼関係が構築できたことで、  
「他者との関わりを避ける気持ちが弱まる」という変化が生まれている**



支援に関する  
考え方や実態

- 地域の社会資源の現在の利用率は高いものでも20%以下。
- 先のことを考えたり、何らかのアクションを起こす余裕がない人、相談したり話をする  
自体に抵抗がある、など人との関わりを避ける気持ちの強い人が一定数いる。
- 「過去に支援機関に相談し、嫌な思いをしたことがある」は全体の2割を占める

事業による  
変化

関係性構築

受援ハードルの  
低下

実施団体のことを信頼している

86.9%

自分たちの立場をわかってくれる支援団体だ

82.9%

「周りに頼らず自分で解決せねば」という考え方が弱くなった

45.2%

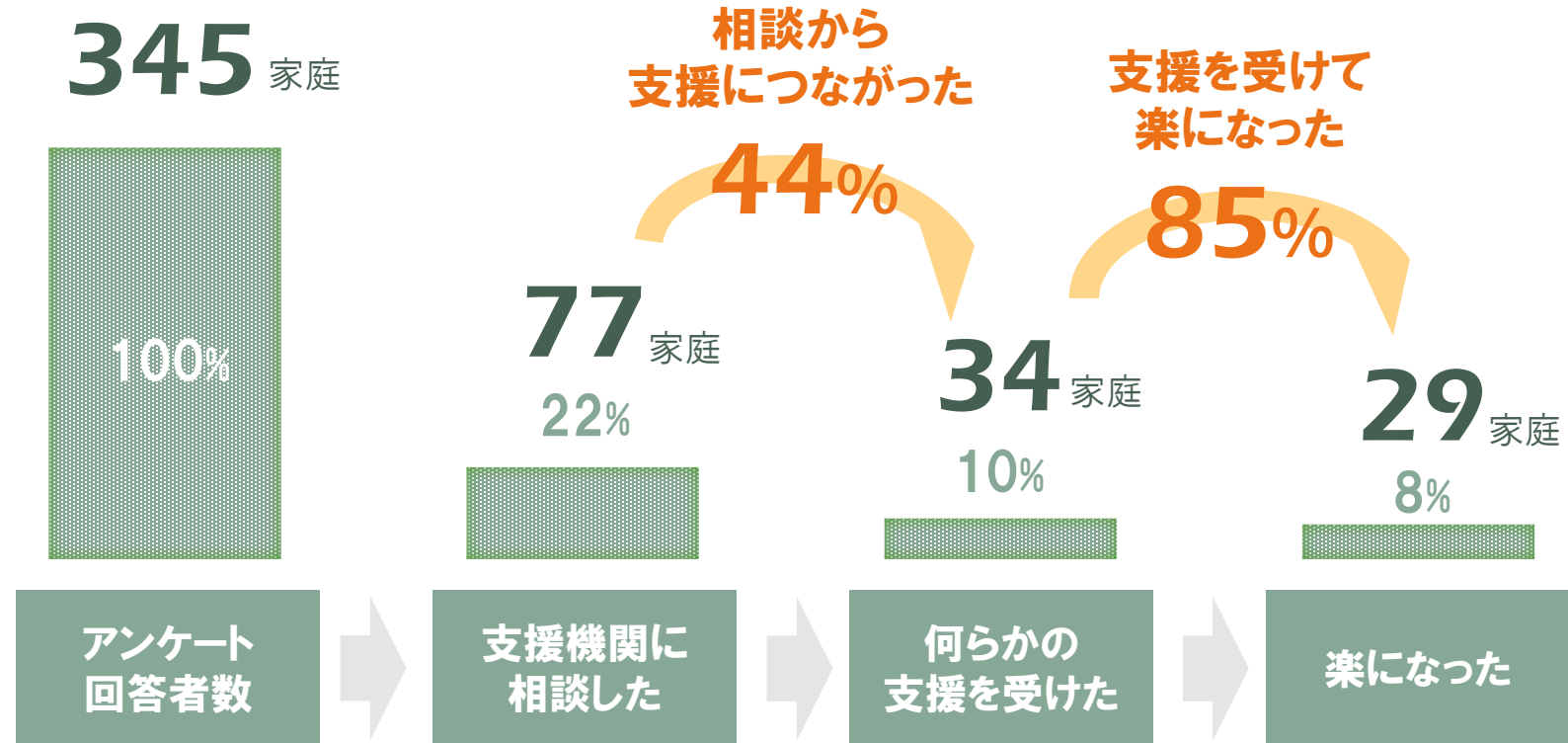
不安や心配事を誰かと共有したり、吐き出すようになった

42.4%

# 4

実際に支援を受けた家庭には、生活に前向きな変化が生まれているか？

支援を受けた家庭には、前向きな変化が生まれている。



## 実施団体、利用家庭向けの全国調査を通じて明らかになったこと

全国の実施団体は、ご家庭に一定量の食品や機会を提供することができている。また、利用家庭の状況や心情に配慮した関わり方、アウトリーチを意識した事業実施もできている。結果として、利用家庭に対して生活の改善をするだけでなく、相談相手として認識されるような関係性を築くことができている。

こども宅食のご利用家庭の中には「既存の社会資源につながりにくい家庭」が一定数含まれており、つながりにくい家庭につながる、アウトリーチを実現するための手段として一定の有効性があるといえる。

利用家庭は事業の利用を通じて、生活面だけでなく、精神面においても様々な前向きな変化を感じており、実施団体を通じて相談支援につながる事例も出ている。

今回の調査では8割を超えるご家庭がこども宅食を利用することで生活の改善があった他、こども宅食実施団体を相談相手と認識し、信頼を寄せる人が多くいることがわかりました。先行して実施したこども宅食の実施団体向け調査では、実施団体のみなさんがご家庭と関係性を築くために様々な工夫や配慮をしていることが明らかになっていますが、その努力が結実しているといえます。

(発表資料：こども宅食の実施実態に関する調査、<https://hiromare-takushoku.jp/2021/06/11/3280/>)

また、実施団体に何らかの相談したことがある方はまだ2割程度でしたが、相談をした結果、何らかの支援を受けて生活が楽になる、という変化も認められました。以上のことから、実施団体向けの調査結果と合わせて、こども宅食事業については、現段階で上述の3点が明らかになっていると言えます。



## こども宅食応援団 が今後目指していくこと

こども宅食応援団では、困難を抱えながらも、まだ支援に繋がっていない子育て家庭につながる有効な支援策として、こども宅食をさらに全国に広めていきます。また、この事業の成果がより多くの事業で生まれるよう、実施団体の皆様には、先進事例の共有や研修の提供など様々なサポートメニューも、提供しています。（詳しくはこちら：<https://hiromare-takushoku.jp/knowledge/>）

訪問型の食支援活動を既に実施していて  
詳しく話を聴きたい・連携したい



**こちらのURLから申し込みをお願いいたします**  
[https://hiromare-takushoku.jp/network\\_application](https://hiromare-takushoku.jp/network_application)

こども宅食事業に関心がある  
事業の事例や実際を知りたい



**こちらのURLでメールアドレスをご登録ください。  
研修・勉強会などのご案内をいたします！**  
<https://hiromare-takushoku.jp/mailfriend>

こども宅食応援団の活動を応援したい  
何らかの形で活動を支えたい



**ふるさと納税での応援を是非お願いいたします!**  
<https://www.furusato-tax.jp/gcf/1186>



# 利用家庭の実態に関する設問

# 1

どのような属性、特徴の家庭がこども宅食を利用しているのか？

## 世帯構成

ひとり親家庭が51.0%、それ以外の家庭が49%とほぼ同数となっている。

## 子どもの人数 年齢

子どもが2人以上いる家庭が68.7%、3人以上いる家庭が32.8%と多子世帯の割合が顕著に高い（全国平均は14.2%※）。年齢で見ると小学生以下の子どもがいる家庭が多い。

※平成30年国民生活基礎調査の概況（厚生労働省）

## 世帯年収 家計状況

世帯年収300万円未満の家庭が78.9%、赤字で家計をやりくりしている家庭が39.4%と、経済的に困窮を抱えていることが推察される。

## 食に関する課題

栄養バランスの偏り、食事の品数の少なさといった食事の内容だけでなく、料理が苦手、栄養バランスや調理方法がわからないなど調理にも課題を抱えている。

## 食品に 関するニーズ

お米やパンなどの主食、日用品、生鮮食品や掃除用品など生活必需品のニーズが高い。お弁当や惣菜よりも喫食頻度の高い食品や保存性の高い食品の方がニーズが高い。

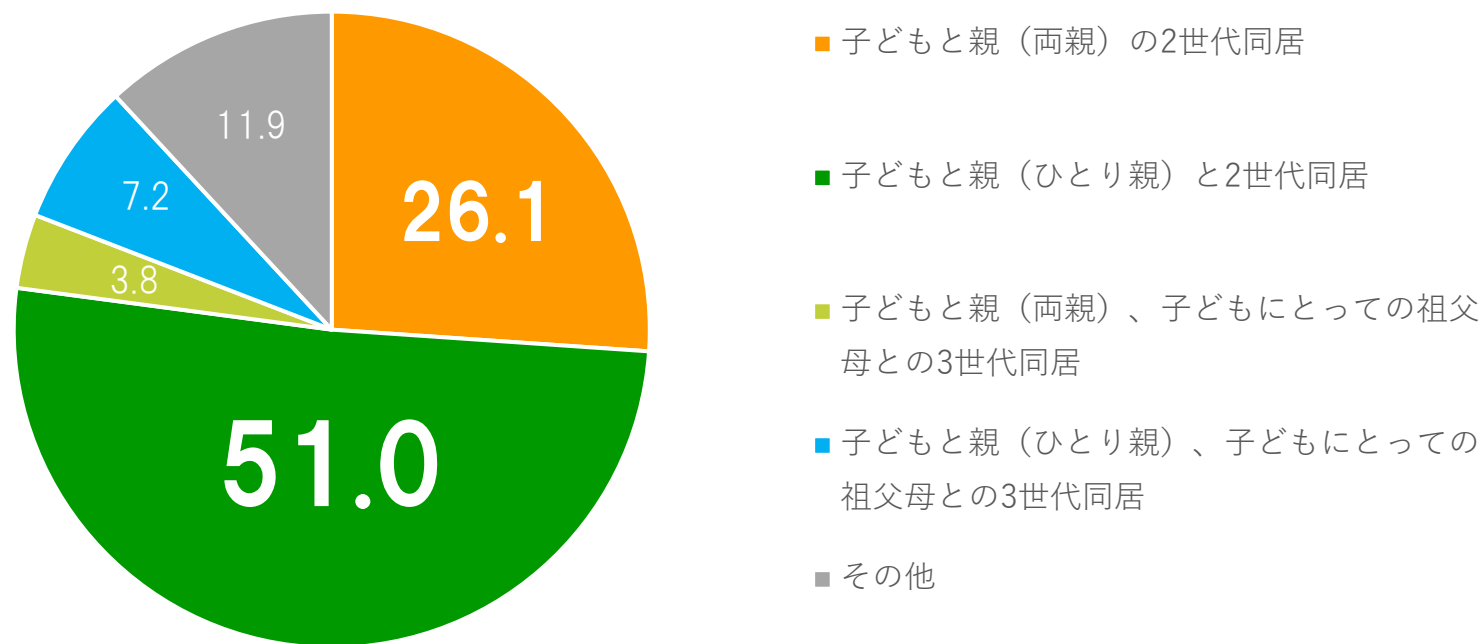
## 生活満足度

生活満足度は平均で61.5点。点数のばらつきが大きい。30点以下が1割程度存在しており、コメントを見ると、特に生活が厳しいことが伺える。



ひとり親家庭が全体の半分(51.0%)を占めるが、半数はそれ以外の家庭構成になっており、多様な家庭が利用していることが推察される。

世帯構成について、教えてください。

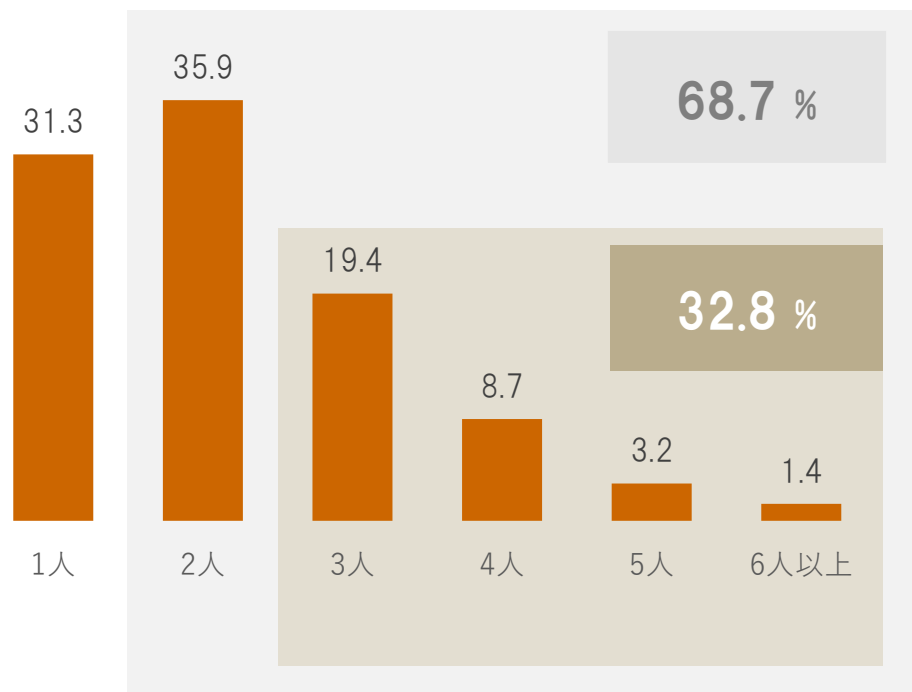


## 子どもの人数、年齢

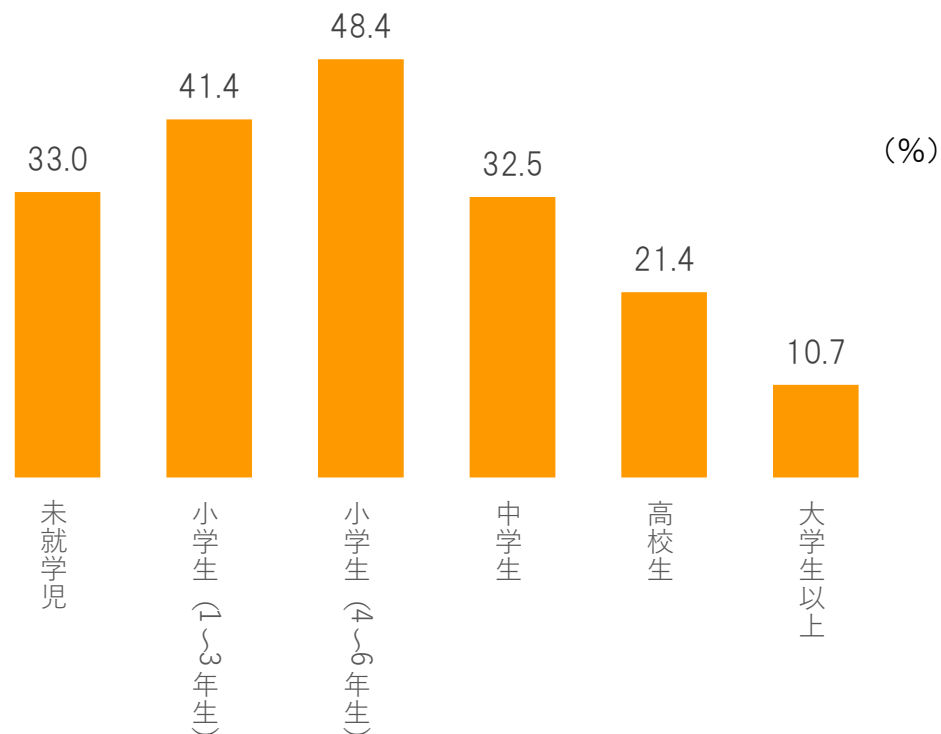
子どもが2人以上いる家庭が7割、3人以上いる家庭が3割を占めている。

年齢で見ると小学生以下の子どもがいる家庭が多い。

家計を共にするお子さんは何人いますか。



お子さんの学年を教えてください。  
お子さんが複数いらっしゃる場合は、あてはまるのものすべてをお選びください。



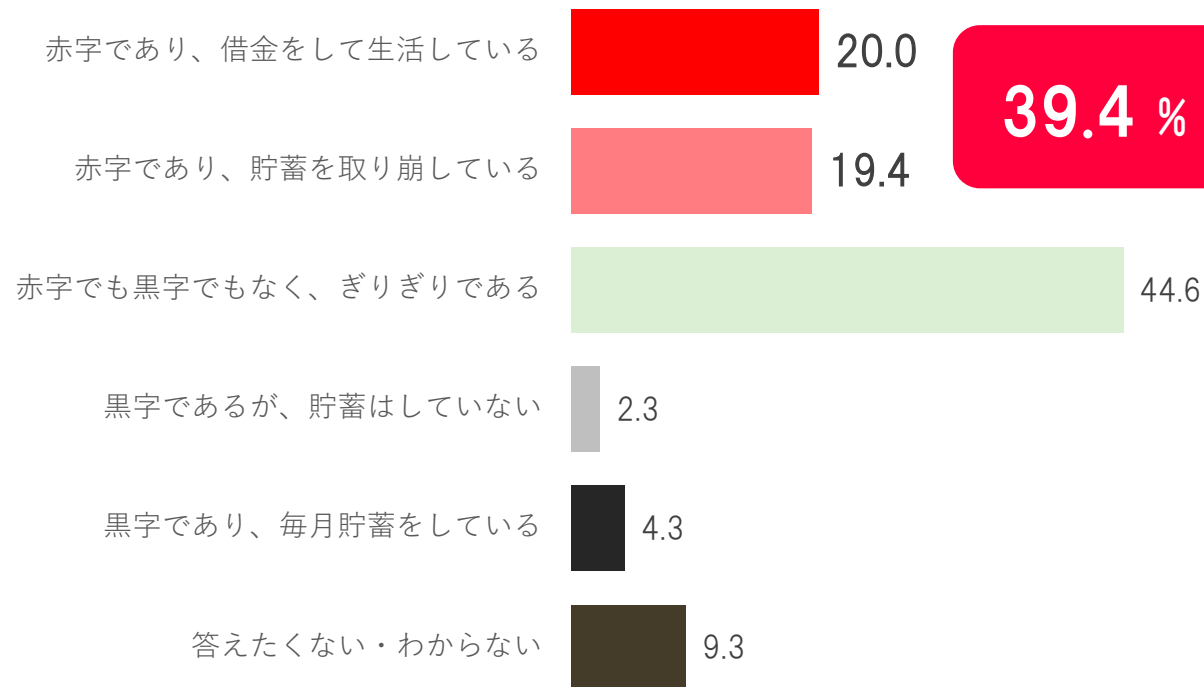
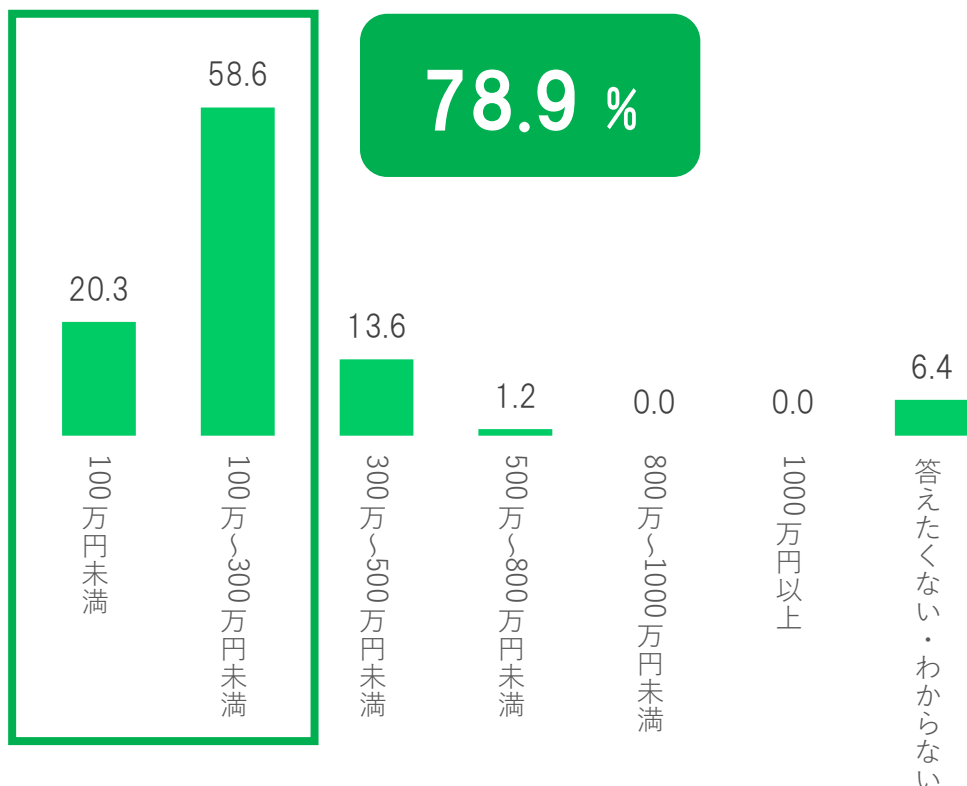
## 世帯年収、家計状況

世帯年収300万円未満の家庭が7割を占めている(78.9%)。

現在の家計状況でみると、赤字の家庭が4割程度となっている(39.4%)。

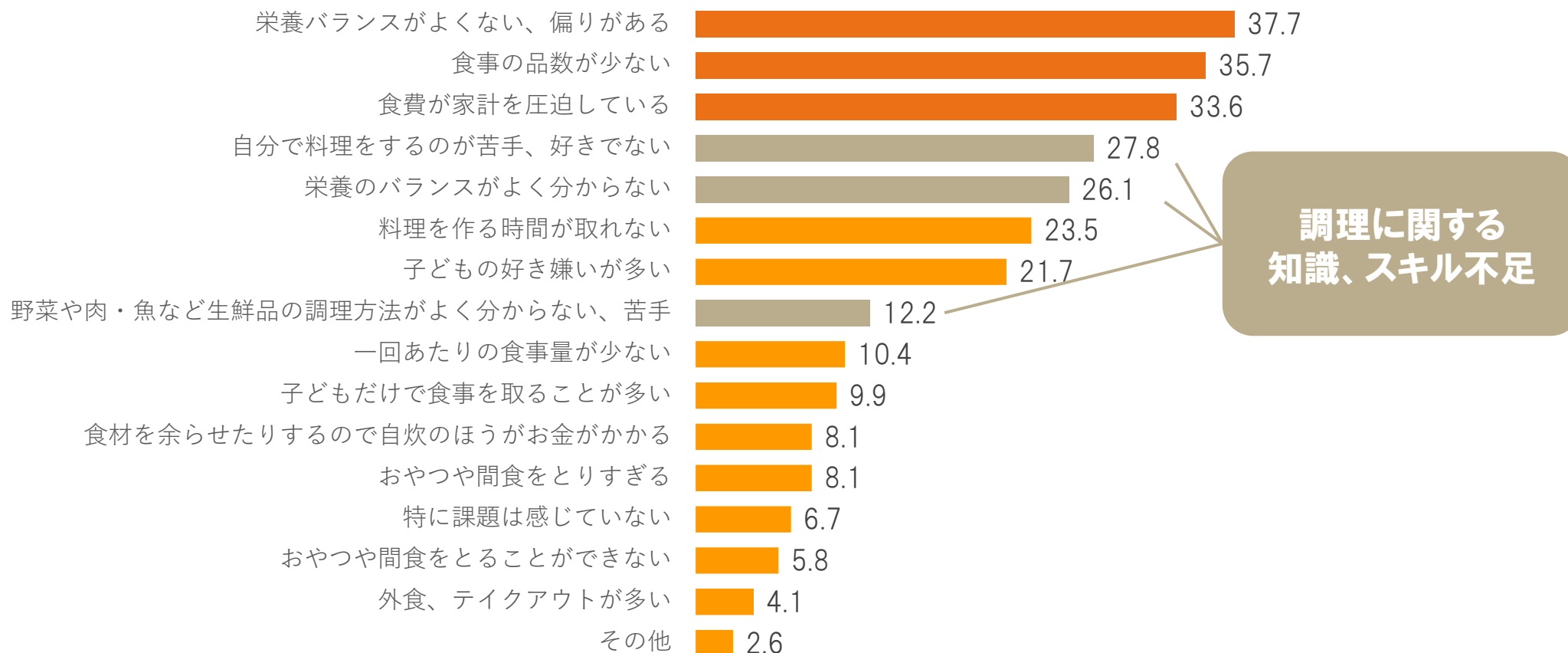
ご家庭の世帯年収について、あてはまるものをお選びください。

ご家庭の家計について、最も近いものをお答えください。



食に関する課題としては栄養バランスの偏り、食事の品数の少なさ、食費の高さが多く挙げられている。料理が苦手、栄養バランスや調理方法がわからないといった、調理自体が課題になっていることもわかった。

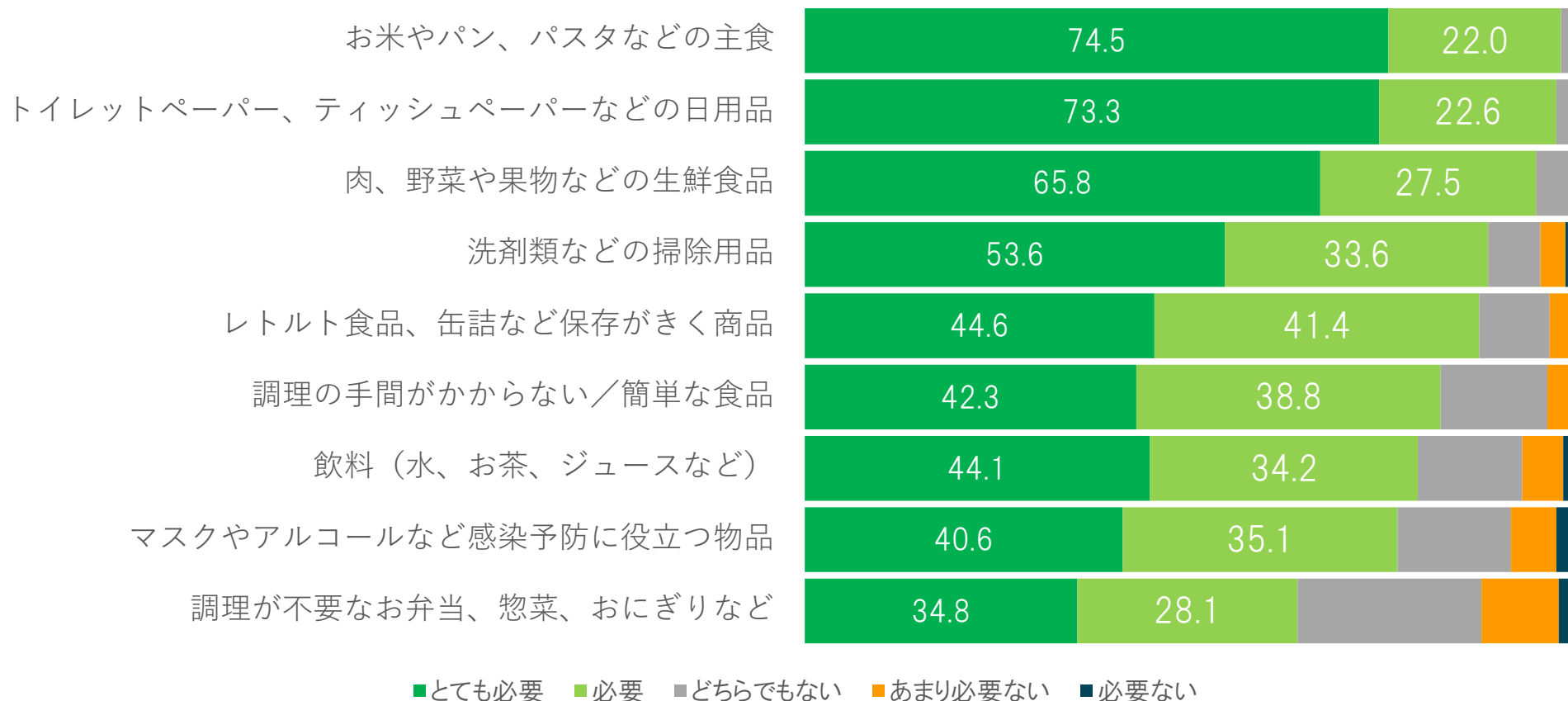
ご家庭の食に関する課題として感じているものをお選びください (%)



## 食品、物品に関するニーズ

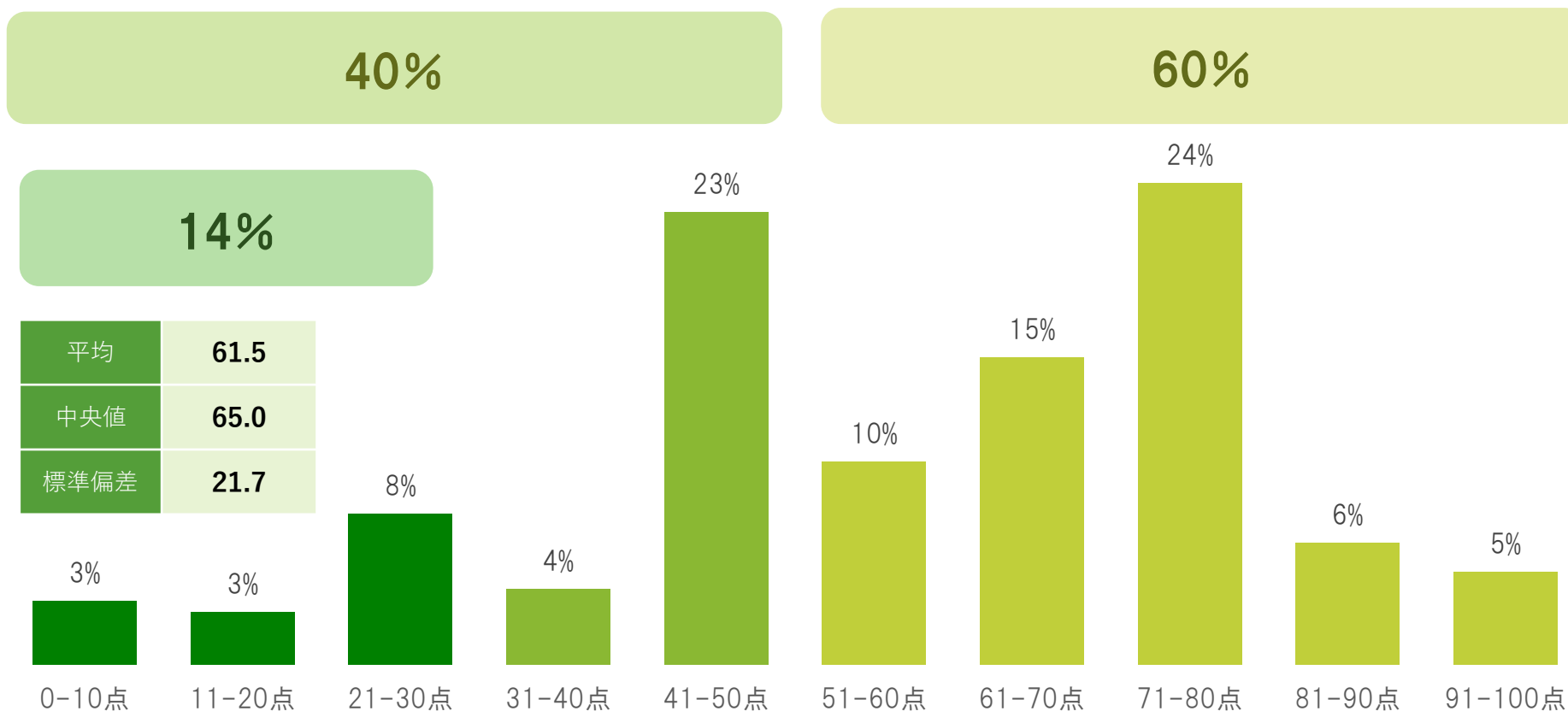
**食品としては、お米やパンなどの主食、日用品、生鮮食品や掃除用品など、生活必需品のニーズが高い。お弁当や惣菜よりも、喫食頻度の高い食品や保存性の高い食品の方がニーズが高いことがわかった。**

食品や日用品として、いまどのようなものがあるといいと思いますか？あてはまるものをお選びください。（％）



生活満足度は平均で見ると61.5点となっているものの、点数のばらつきが大きく、現状に対する捉え方が家庭によって大きく異なっている。一方で、30点以下の低い点数をつけている家庭が1割程度存在しており、これらの家庭について特に生活が厳しいことが家庭の声から推察される(次ページ参照)

あなたの現在の生活に対する満足度について点数をつけると、100点満点で何点になりますか。



## 生活満足度の点数を選んだ理由 (0-30点)

**30点**

父子家庭で4人の子どもを抱え、貯金を切り崩しながら生活しており、先が不安であるため。

**20点**

時間、収入ともに必要最低限の生活を送っているように感じる。家族のため自分のために使える時間やお金がほぼないと感じます。

**10点**

仕事に疲れて心に余裕が全く無い。愚痴を話せる相手も居ず、自分の中で溜め込んでしんどい

**0点**

養育費を払ってもらえないし、仕事が見つからないので将来が不安。子供達に不自由させたくないから、それなりの給料の仕事につきたいが、学歴もないし、資格もない。子供が小さいので思うように働けない。

主人がコロナ倒産し再就職先もまだ見つからず失業保険があと2ヶ月で終わると思うと、その先が不安でしかありません。上の子供も4月から高校生でお金もかかるし、児童手当も終わります。主人も精神的に追い込まれているのか最近は人格もかわり、正直離婚したいです。

**30点**

**30点**

金銭面で生活が楽ではなく、子供に辛抱させていることなどが辛いから。

# QOLの向上に関する設問

回答者：**実施団体**

回答者：**利用家庭**

資源の投入（インプット）

活動

活動の結果（アウトプット）

成果（アウトカム）

どれくらいの**資源**を投入して運営しているか？

事業としてどのような**活動**をしたか？

活動によってどのような**結果**を出しているか？

利用家庭にどのような**成果**を出すことができたか？

ヒト

食品配送

配送世帯数・

QOLの向上

モノ

アウトリーチ

関係性構築

受援ハードルの低下

カネ

ソーシャルワーク

相談支援

支援による変化





2

こども宅食の利用によって、利用家庭の食生活は楽になっているか？  
QOLに改善は見られるか？

こども宅食は利用家庭のQOLの向上や食生活の改善に貢献している。

気持ち

こども宅食の利用によって  
気持ちが豊かになった

82.6 %

「地域や社会とのつながりを感じるようになった」という回答も多い

こども

笑顔や会話が増えたなど  
こどもに前向きな変化があった

72.8 %

こども宅食の利用によって節約  
できたお金がこどものQOLの改善  
に使われている

食事

食事の回数や内容に  
何らかの改善が見られた

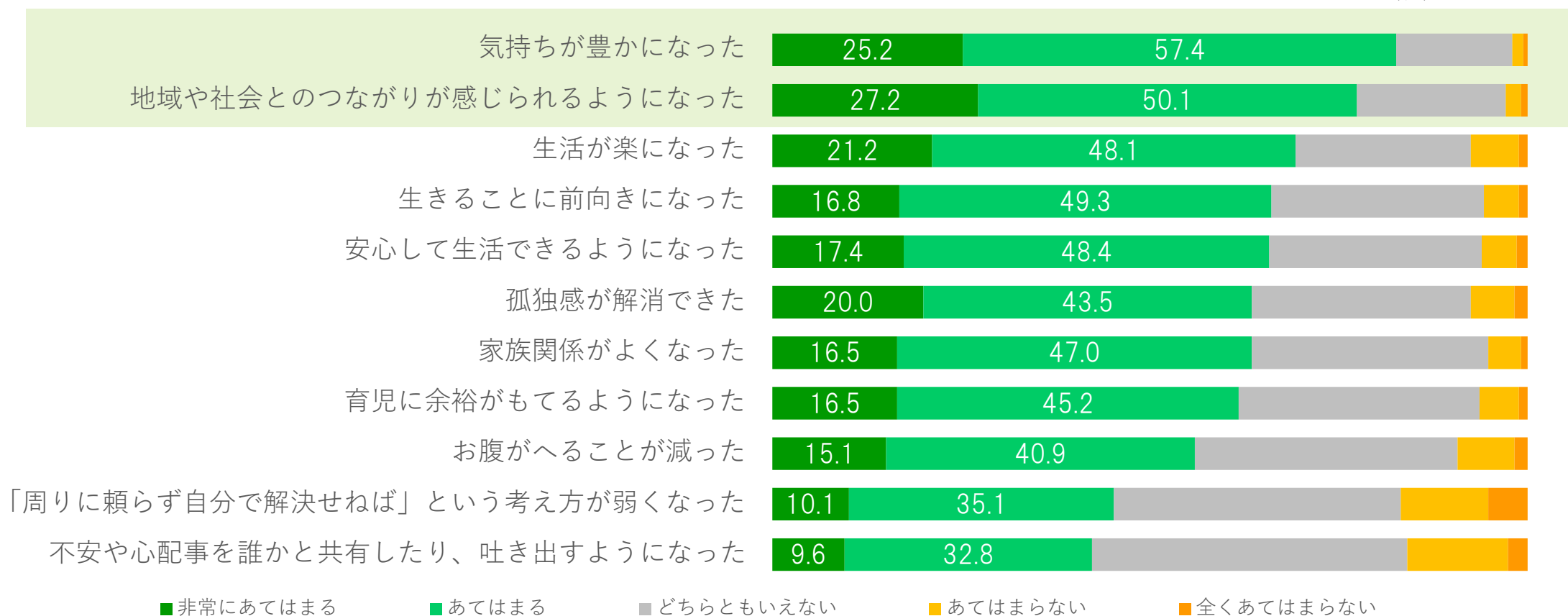
86.4 %

献立を考えるのが楽になった、レ  
パートリーが増えたなど、調理の負  
担も減っている。

## 利用による変化

生活が楽になる、お腹が減らなくなるということよりも、気持ちが豊かになった、地域や社会とのつながりを感じるようになった、という精神的な変化の方が大きくなっている。

こども宅食を利用することで、どのような変化が生まれましたか。あてはまるものをお選びください (%)

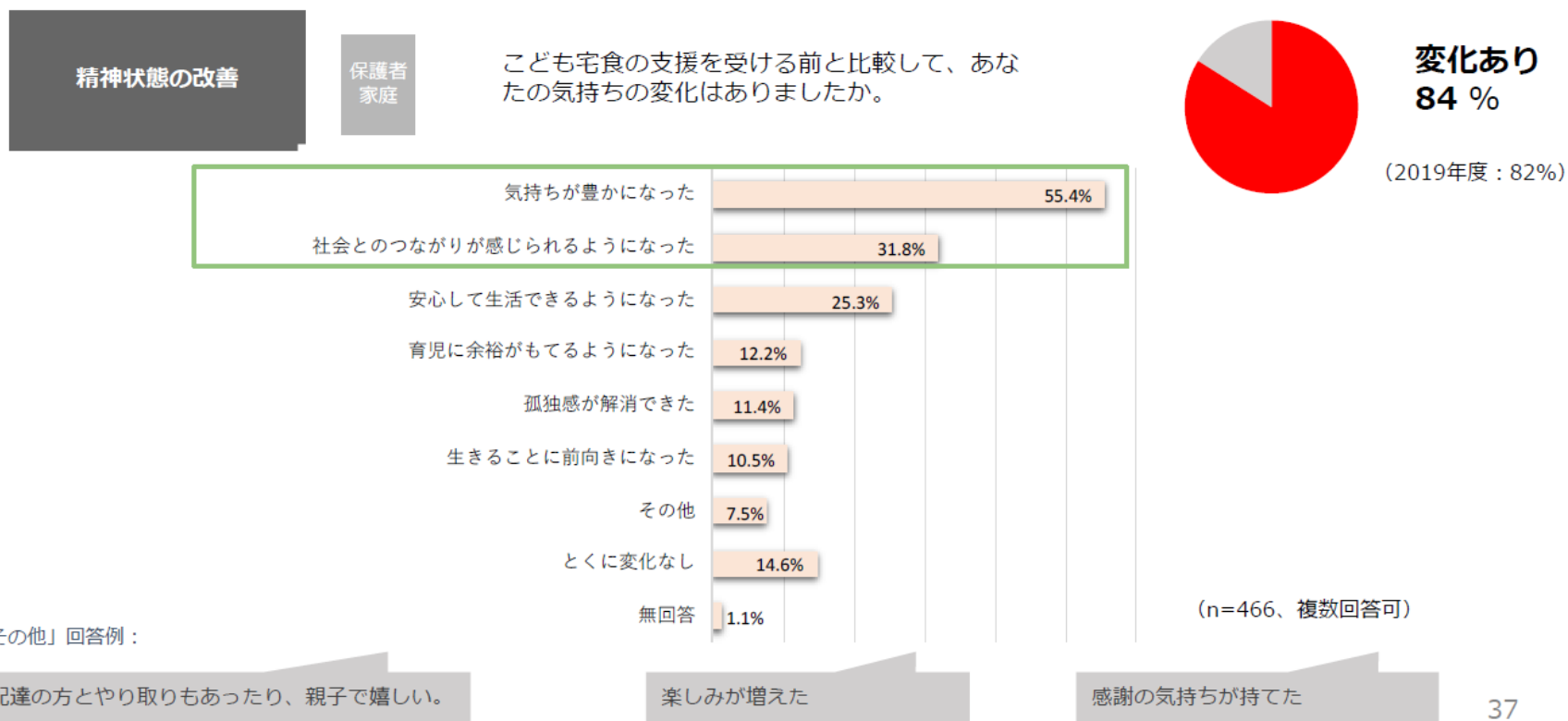


## 利用による変化:文京区こども宅食事業の結果との比較

東京都文京区で実施しているこども宅食事業でも、利用家庭に同様の変化が見られている。

### 5-4. 評価結果の詳細：初期アウトカム（2） 心理的ストレスが減少する

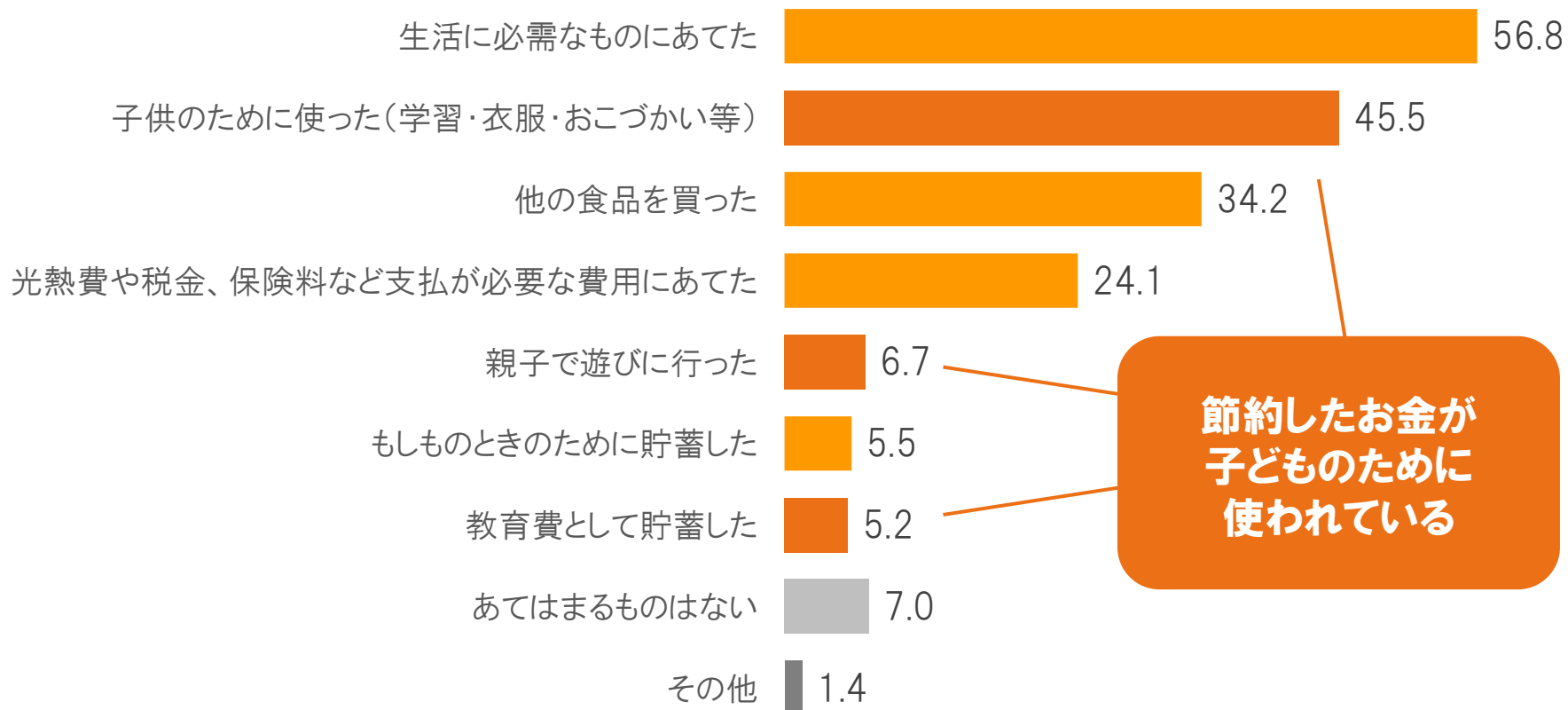
保護者の84%にポジティブな変化が見られ、「気持ちが豊かになった」「社会とのつながりが感じられるようになった」との回答が多い。



## 節約できたお金の使途

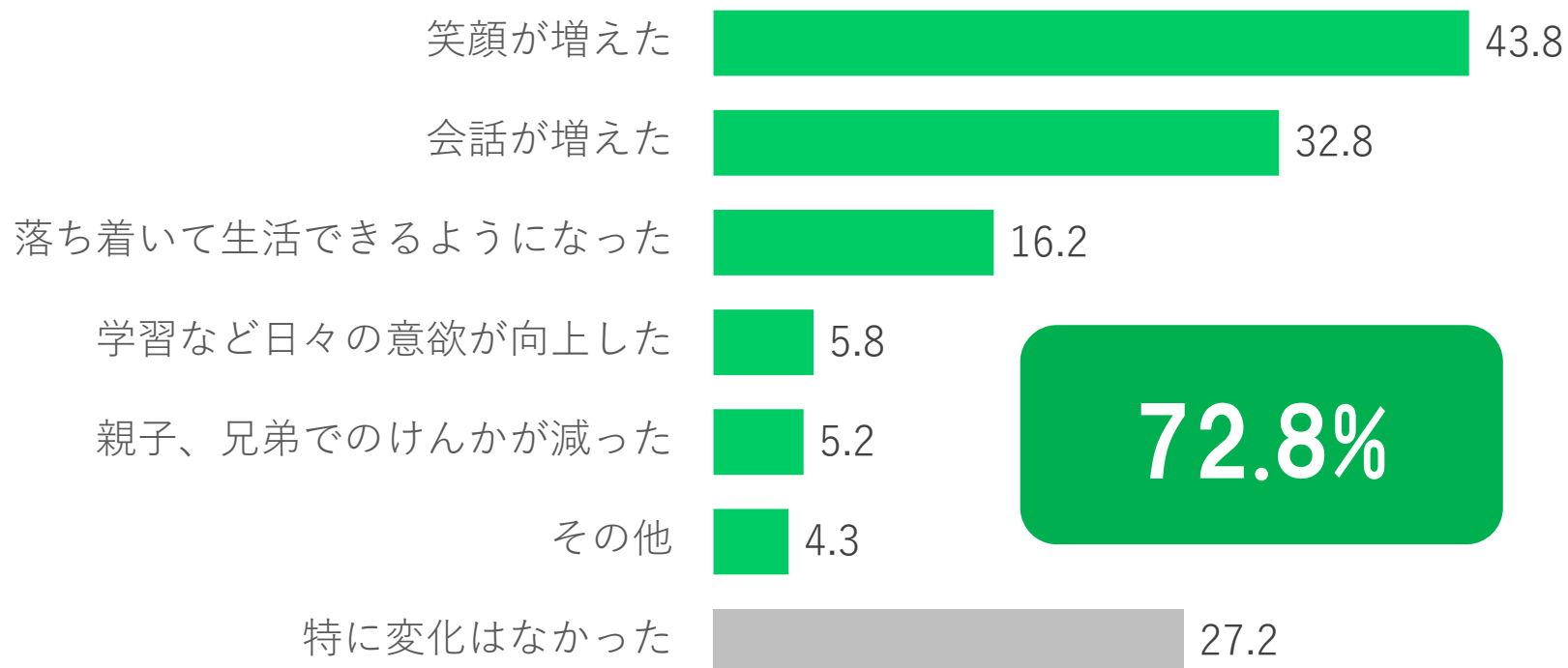
こども宅食の利用で節約できたお金については、生活必需品の購入などQOLの向上に使われている。  
家庭だけでなく、子どものためにも使われている。

節約したお金でどのようなことができましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(%)



## 笑顔や会話が増えたなど、7割の家庭で子どもに対して前向きな変化があった。

こども宅食の利用前と現在を比較して、お子さんの態度に変化はありましたか。あてはまるものをお選びください。（%）



食生活の変化としては、「食事をつくる手間が省けたこと」を挙げる人が最も多かった。食の内容が充実するだけでなく、調理の負担が減ることも変化として認識されている。

こども宅食の利用前と現在を比較して、ご家庭の食事内容に変化はありましたか。あてはまるものをお選びください。（%）



# 受援ハードルの低下に関する設問

回答者: **実施団体**

回答者: **利用家庭**

資源の投入 (インプット)

活動

活動の結果 (アウトプット)

成果 (アウトカム)

どれくらいの**資源**を投入して運営しているか？

事業としてどのような**活動**をしたか？

活動によってどのような**結果**を出しているか？

利用家庭にどのような**成果**を出すことができたか？

ヒト

モノ

カネ

食品配送

アウトリーチ

ソーシャルワーク

配送世帯数・量

関係性構築

相談支援

QOLの向上

受援ハードルの低下

支援による変化



# 3

こども宅食の利用を通じて、利用家庭の気持ちに変化は見られているか？  
支援を受けることに対する抵抗感は減っているか？

## 事業を通じて、実施団体との信頼関係が構築できたことで、 「他者との関わりを避ける気持ちが弱まる」という変化が生まれている



支援に関する  
考え方や実態

- 地域の社会資源の現在の利用率は高いものでも20%以下。
- 先のことを考えたり、何らかのアクションを起こす余裕がない人、相談したり話をするに  
自体に抵抗がある、など人との関わりを避ける気持ちの強い人が一定数いる。
- 「過去に支援機関に相談し、嫌な思いをしたことがある」は全体の2割を占める

事業による  
変化

関係性構築

受援ハードルの  
低下

実施団体のことを信頼している	86.9%
自分たちの立場をわかってくれる支援団体だ	82.9%
「周りに頼らず自分で解決せねば」という考え方が弱くなった	45.2%
不安や心配事を誰かと共有したり、吐き出すようになった	42.4%

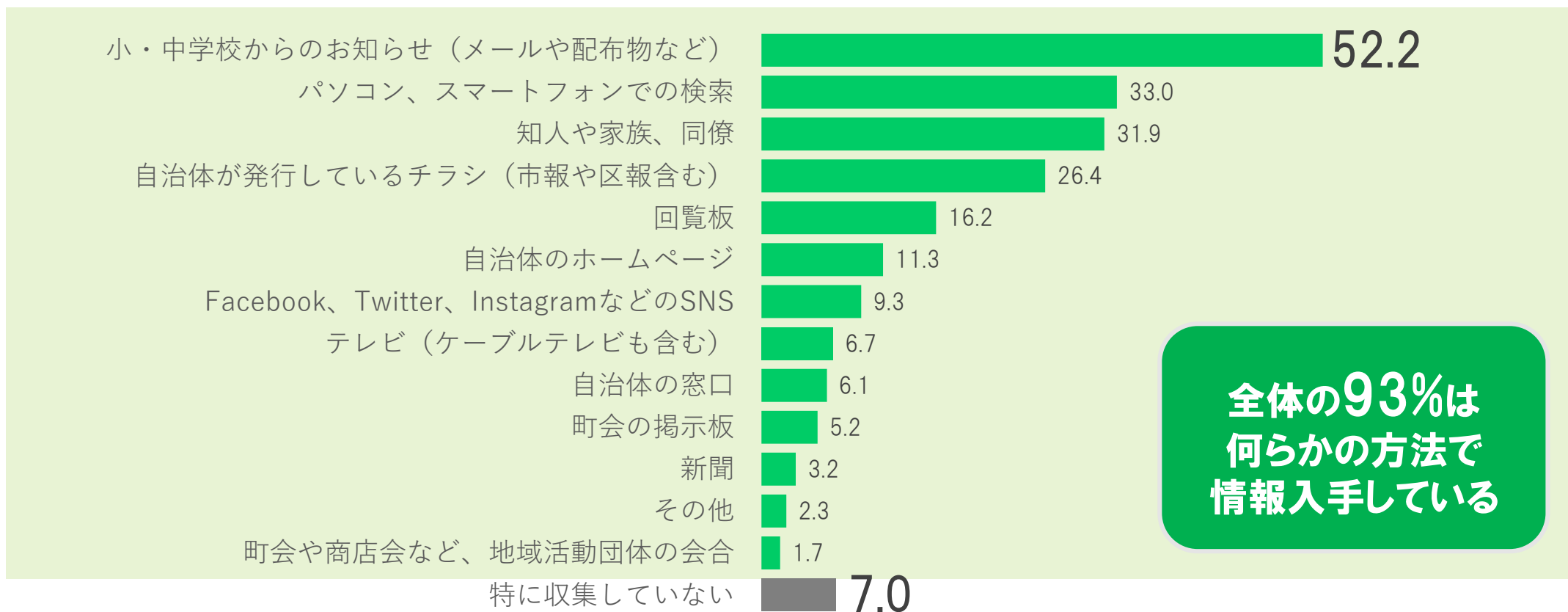


## 生活、子育て支援に関する情報収集

93%の家庭が何らかの方法で生活や子育て支援に関する情報を収集しており、最も多いのは学校からのお知らせで5割、次いで、パソコンやスマートフォンでの検索が3割となっている。一方で、特に情報収集をしていない人も7%存在している。

(%)

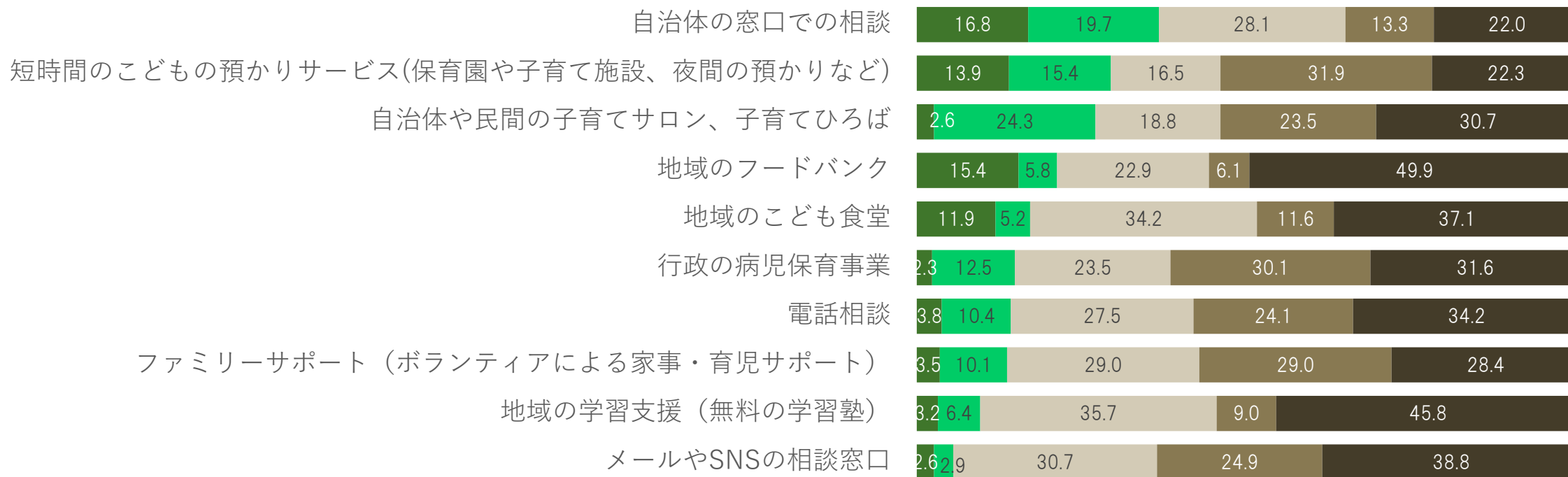
現在、生活や子育て支援に関する情報はどこから入手していますか？あてはまるものをすべてお選びください。



## 地域の社会資源の利用実態

**地域の社会資源の現在の利用率は高いものでも20%以下。過去の利用経験を入れても40%まで届くものはない。これらの社会資源の大半は、利用意向が低い／ない、そもそも知らない人が半数を超えている。**

生活に困ったとき、子育てに悩んだときなどに、地域の支援、福祉サービスを利用したことはありますか。 (%)  
 利用状況についてあてはまるものをお選びください。



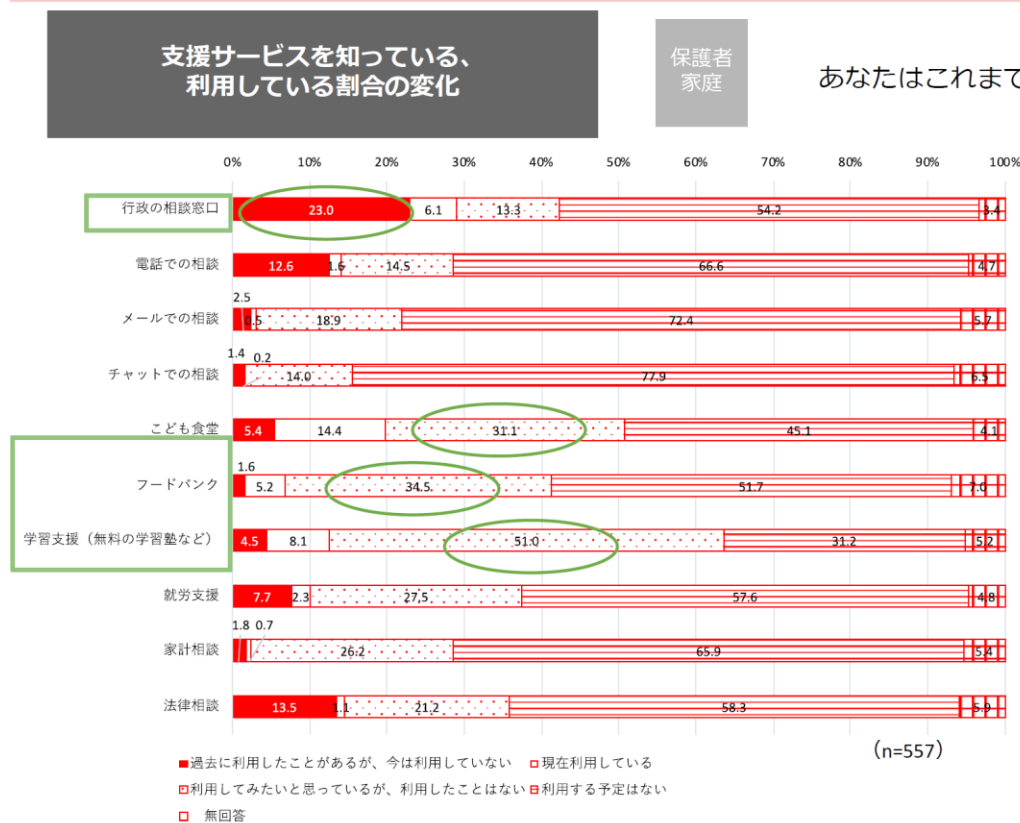
- 現在利用している
- 過去に利用したことがあるが、今は利用していない
- 利用してみたいと思っているが、利用したことはない
- 利用したくない、利用する予定はない
- 地域にあるのかどうか知らない、内容がよく分からない

## 地域の社会資源の利用実態：文京区こども宅食事業の結果との比較

東京都文京区で実施しているこども宅食事業でも、社会資源の利用率は最も高い「行政の窓口」でも3割程度となっている。全国各地域にこうした家庭が存在することが示唆される。

### 5-4. 評価結果の詳細：初期アウトカム（5） 社会資源を知っている、利用している

総体的には利用しているサービス、利用経験の割合に変化は見られなかった。まずは、利用希望が高いサービスに関する情報提供の強化が必要である。

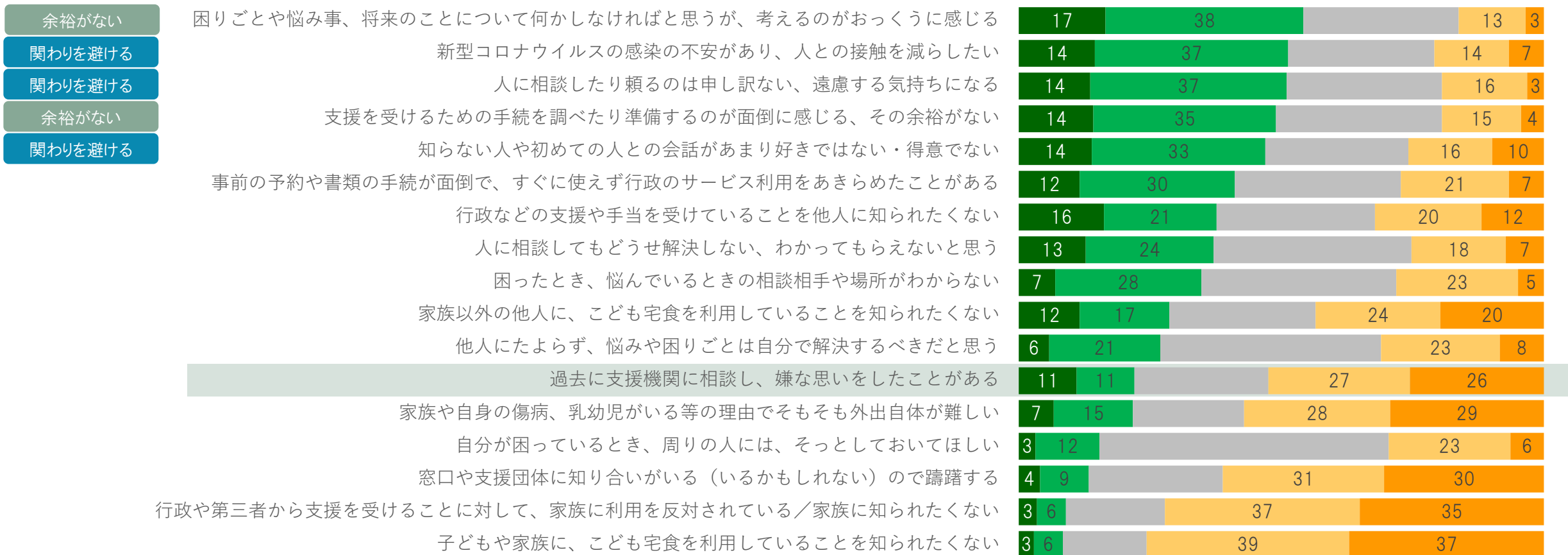


- 前回の調査結果同様、利用経験のある割合は、最も高い「行政の相談窓口」でも3割であり、全般的に行政や地域の支援メニューを利用している人は少ない。
- 「利用してみたいと思っているが、利用したことはない」割合も前回の調査結果同様の傾向であり、「学習支援（51.0%）」「こども食堂（31.1%）」「地域のフードバンク（34.5%）」の順で多くなっている。
- まずは、利用希望が多いサービスに関する情報提供の強化を行い、そこからさらなる支援サービスの周知や利用につなげていくといったアプローチが検討できるのではないかと。

## 支援の利用に関する意識

先のことを考えたり、何らかのアクションを起こす余裕がない人、相談したり話をする事自体に抵抗があるなど人との関わりを避ける気持ちの強い人が一定以上いることがわかった。

以下に挙げる文章のうち、ご自身の考えにあてはまるものをお選びください。（％）



■とてもあてはまる ■あてはまる ■どちらともいえない ■あてはまらない ■全くあてはまらない

## 支援の利用に関する意識

「過去に支援機関に相談し、嫌な思いをしたことがある」は全体の2割を占める。過去支援機関と関係性構築がうまくいかなかったことが、現在支援につながりづらい要因の1つになっていることが示唆された。

以下に挙げる文章のうち、ご自身の考えにあてはまるものをお選びください。（％）



次ページで  
事例を紹介

■とてもあてはまる ■あてはまる ■どちらともいえない ■あてはまらない ■全くあてはまらない

## 支援機関で過去に嫌な思いをしたときの状況

暴力で離婚しようとして相談に行った際に、母親である私の病気などについて触れて、**そんなんで離婚できるわけないでしょ**と言われた。

役所で、**あなたは低所得で税金をろくに払ってないのだから払ってる人達に対して遠慮しろ**と言われた。彼氏がいて支援してもらってそうだからと母子手当を調査として2年止められた。役所では何の相談も出来ません

子育てのことで某所に事前連絡の上で相談に伺いましたが、**小さい子は連れてこないで実家に預けるとかしてください**、と言われ、そもそもそのようなことができるなら相談に来ないと思い、その時の対応者の剣幕や表情を思うと、その後は怖くて、全くどこにも相談出来なくなりました。

**あなたは職業訓練なんてしたって受からないからさっさと仕事を探して下さい**って言われてすごくショックを受けた。

仕事の為、市が運営する子供を預けるサービスを利用していたが、**利用しすぎと窓口で2時間説教された**。

シングルで出産した際、母子の手続きをしましたが、2人目の出産後に母子は無理と言われ保険料の用紙をその際渡されました。**事情がありシングルなのですが母子申請が出来ず、相談に行くのも気が滅入ります**。

## 支援機関で過去に嫌な思いをしたときの状況

その程度でこれだけでも的なことを言われた。

相談をしている間、威圧的に被せて話してきたり、自分の価値観のみで受け答えをされて、もうここに話しても意味が無いなと思った。

ひとり親になり、仕事を探すにもまだ乳児の娘を保育園に預けなければ面接にも行けない状況で、区役所で何度も事情を説明したが、ひとり親家庭がみんな本当に困っているとは限らないのでと言われた。

両親が再婚していて父と戸籍が違う為、手続き等で人の倍時間がかかる。その上、片方では身内扱いされたり、もう片方では他人扱いされたりするので毎回大変な思いをする。良好な関係ならそもそも相談しないのですが、理解を得られない時は泣きたくなる。

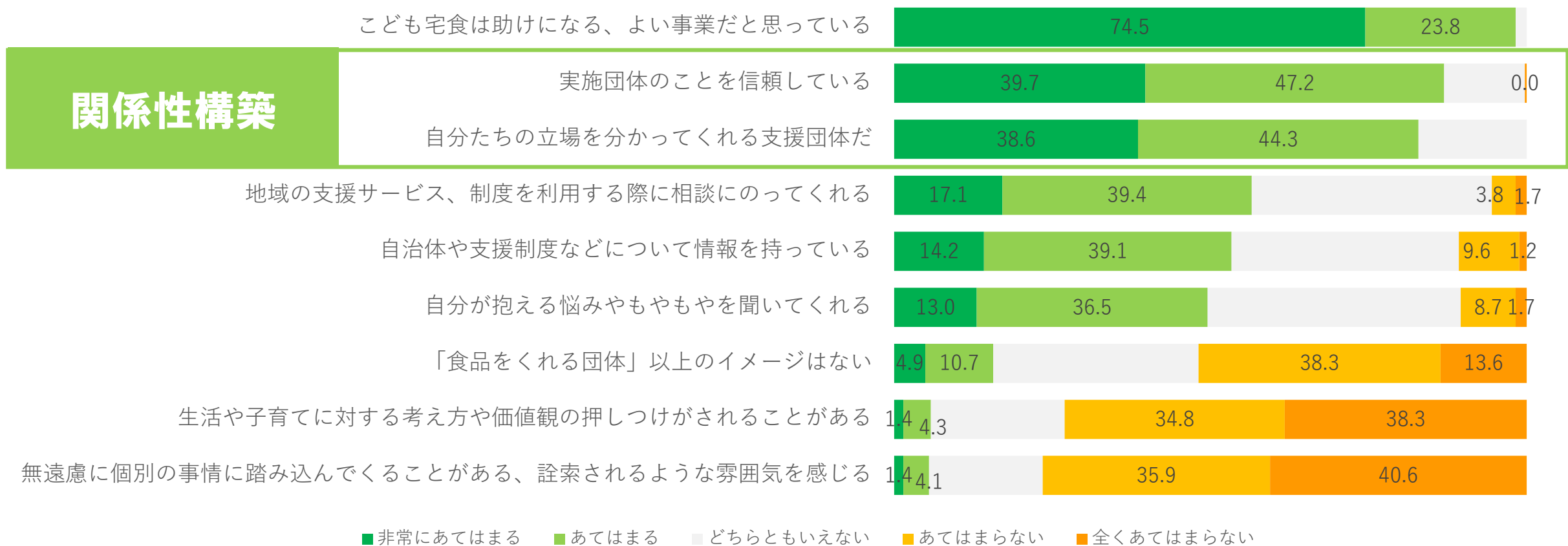
子供の病気と学校の事で、各方面に相談や協力をお願いしても、根本的な解決策もないし、本人と保護者で乗り越えてみたいと言われた。

相談しても実家でしょと言われた。父も退職しているし、母は病気の障害者で、介護とまでは行かないが、家事はほぼして別にも助けてもらっているわけではないのに。

## 事業や実施団体に対する認識

利用家庭の多くは、事業に対して好意的な印象を持っている。また、実施団体に対する信頼も厚く、もやもやや悩みを話したり、相談したりする相手として認識している人が半数を超え、よい関係性が築けている。

現在、みなさんが利用している地域のこども宅食事業や実施団体(ボランティア)に対するイメージとしてあてはまるものをお選びください。(%)

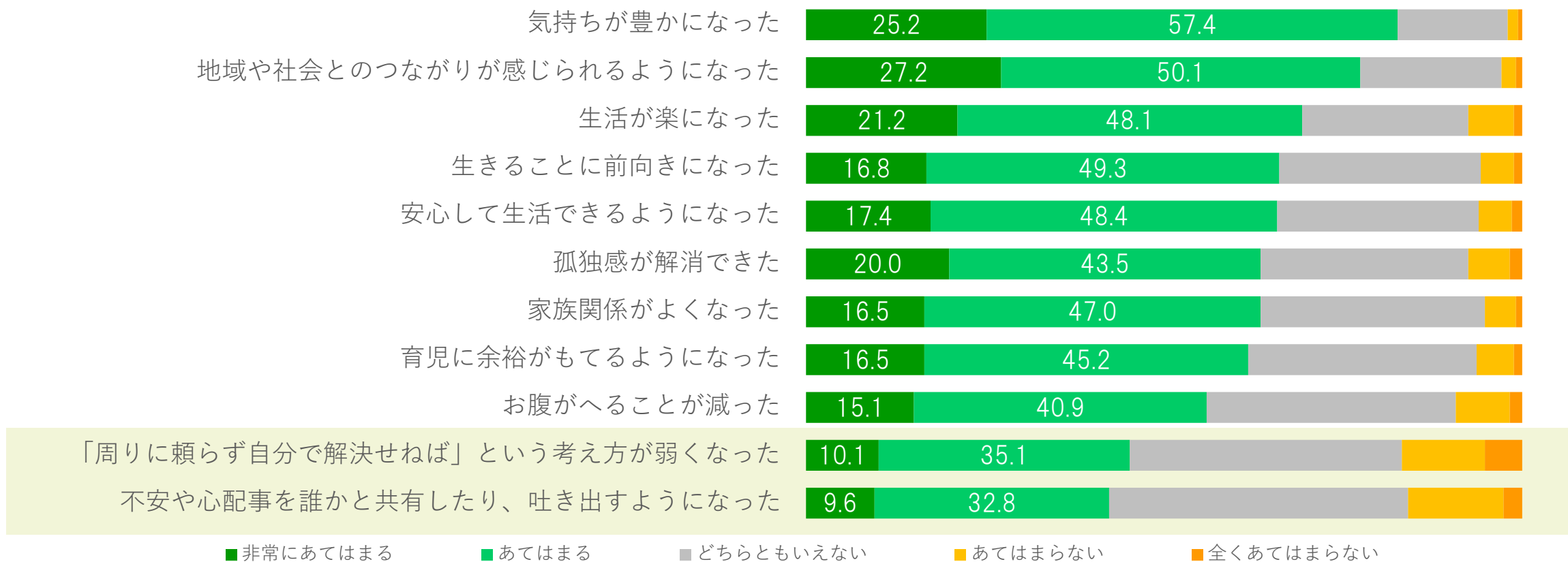




## マインドセットの変化

「周りに頼らずに自分で解決せねば」という考え方が弱くなる、不安や心配事を誰かに吐き出すなど、他者との関わりに関する考え方に変化が生じている。

こども宅食を利用することで、どのような変化が生まれましたか。あてはまるものをお選びください (%)



# 支援による変化に関する設問

回答者: **実施団体**

回答者: **利用家庭**

資源の投入 (インプット)

活動

活動の結果 (アウトプット)

成果 (アウトカム)

どれくらいの**資源**を投入して運営しているか？

事業としてどのような**活動**をしたか？

活動によってどのような**結果**を出しているか？

利用家庭にどのような**成果**を出すことができたか？

ヒト

食品配送

配送世帯数・量

QOLの向上

モノ

アウトリーチ

関係性構築

受援ハードルの低下

カネ

ソーシャルワーク

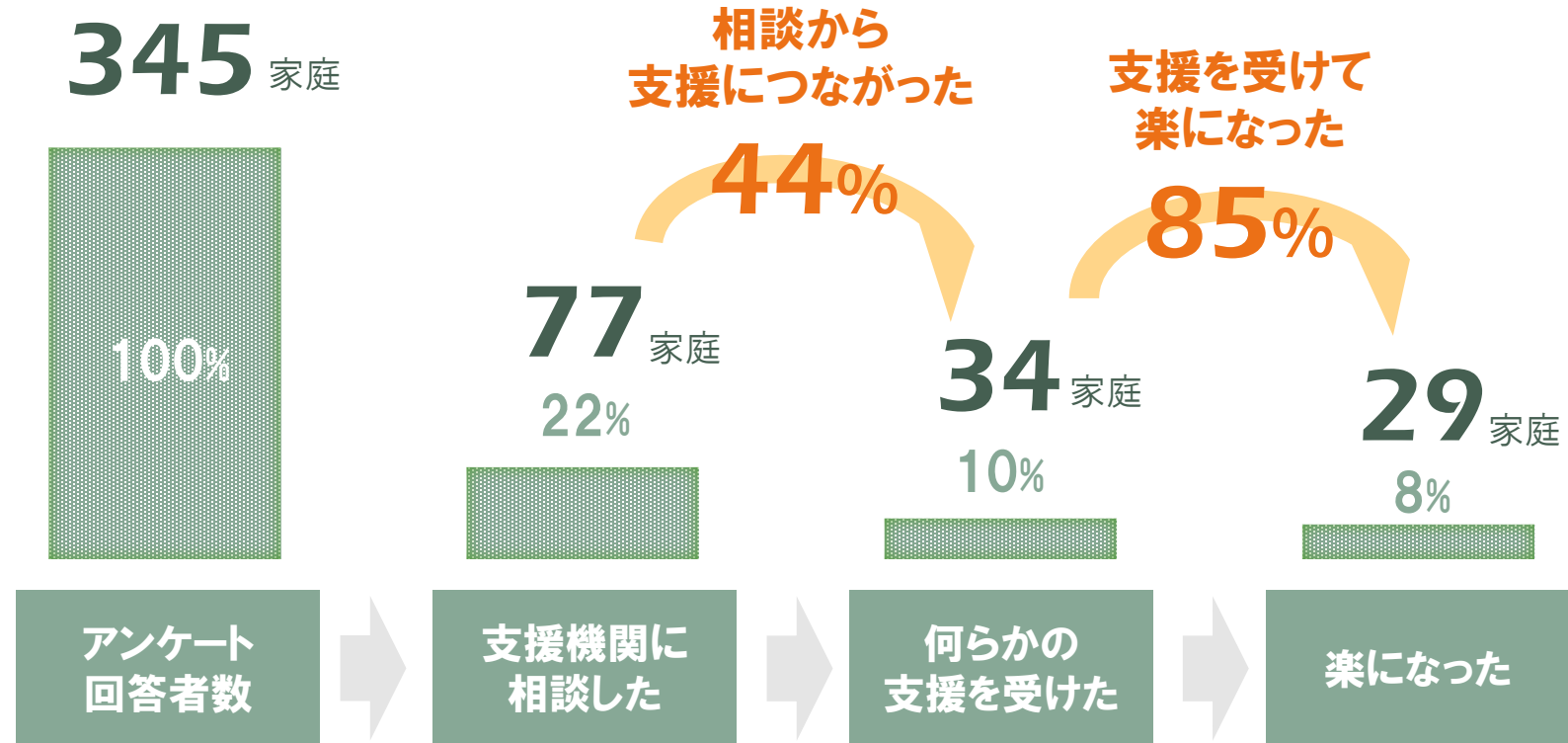
相談支援

支援による変化

# 4

実際に支援を受けた家庭には、生活に前向きな変化が生まれているか？

支援を受けた家庭には、前向きな変化が生まれている。

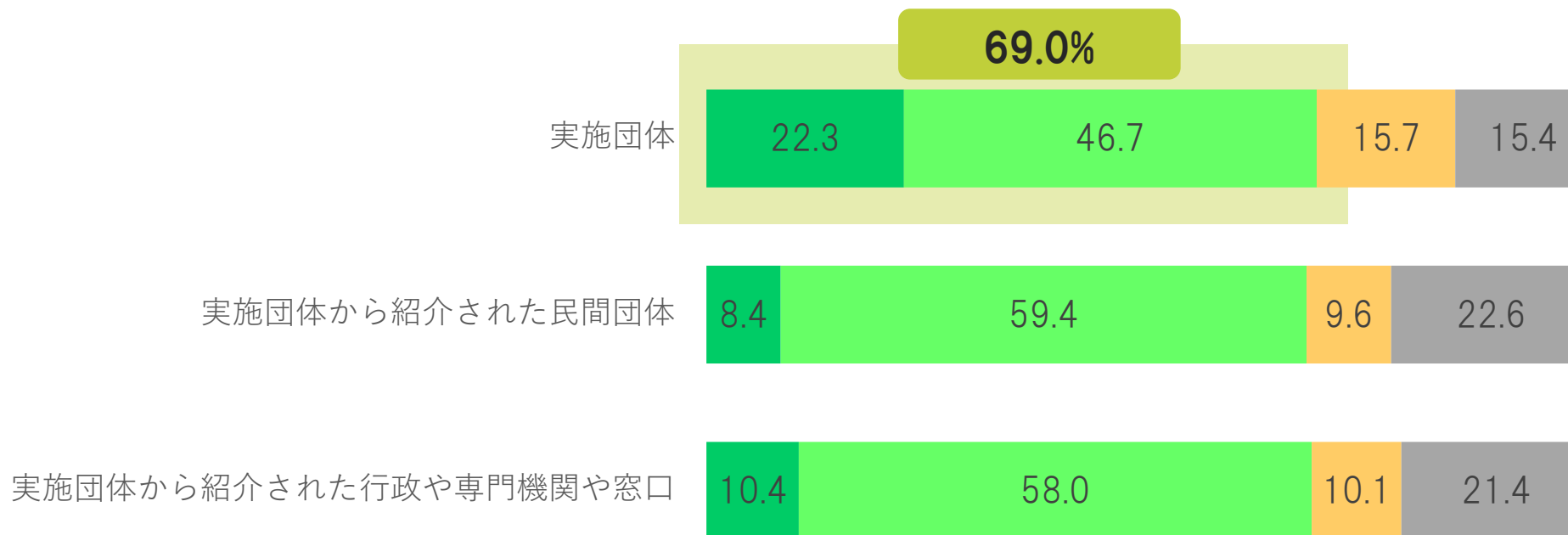


## 実施団体への相談の有無

**実際に、実施団体に何らかの相談をしたことがあるのは全体の22.3%。機会があればしたい人の割合が46.7%となっているため、相談の意向がある人は全体の7割を占める。**

こども宅食事業を利用するなかで、子育てや生活のことについて何か実施団体などに相談をする機会がありましたか？あてはまるものをお選びください。

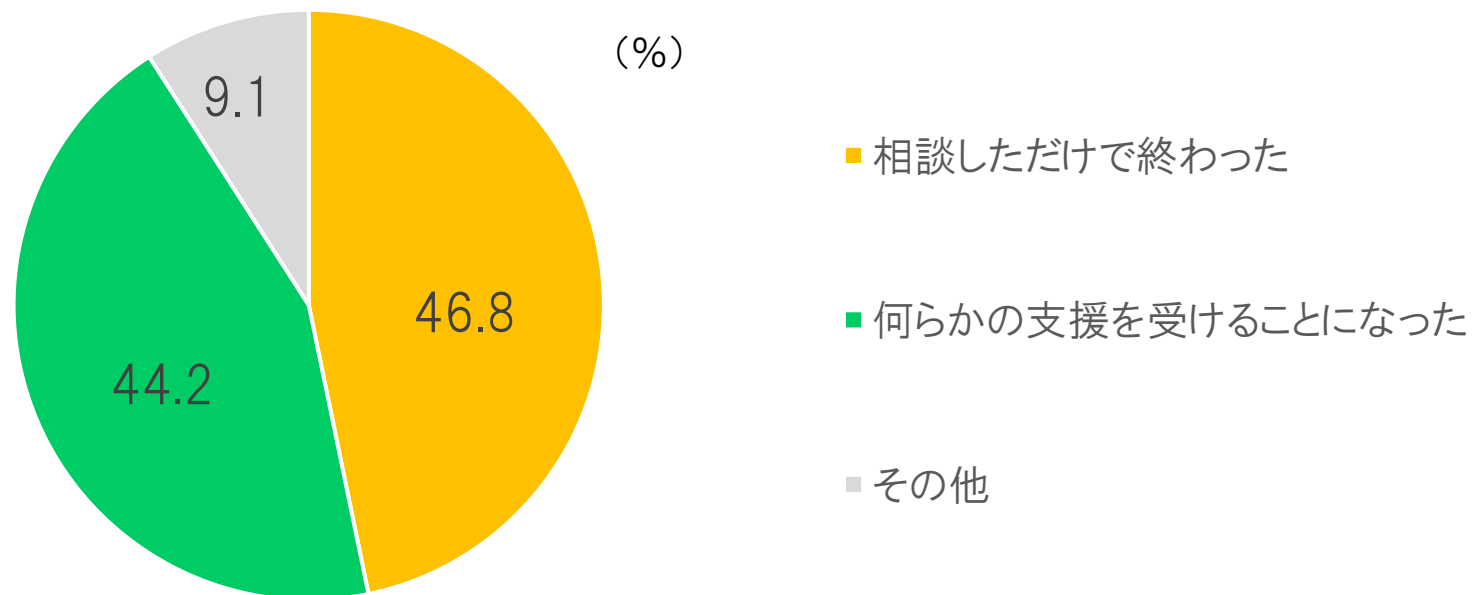
(%)



- 相談をしたことがある
- 相談する機会がなかったが、機会があればしたい
- 相談する機会があつたが、しなかつた
- 相談する機会がなかったし、あつたとしても相談したくない／相談しない

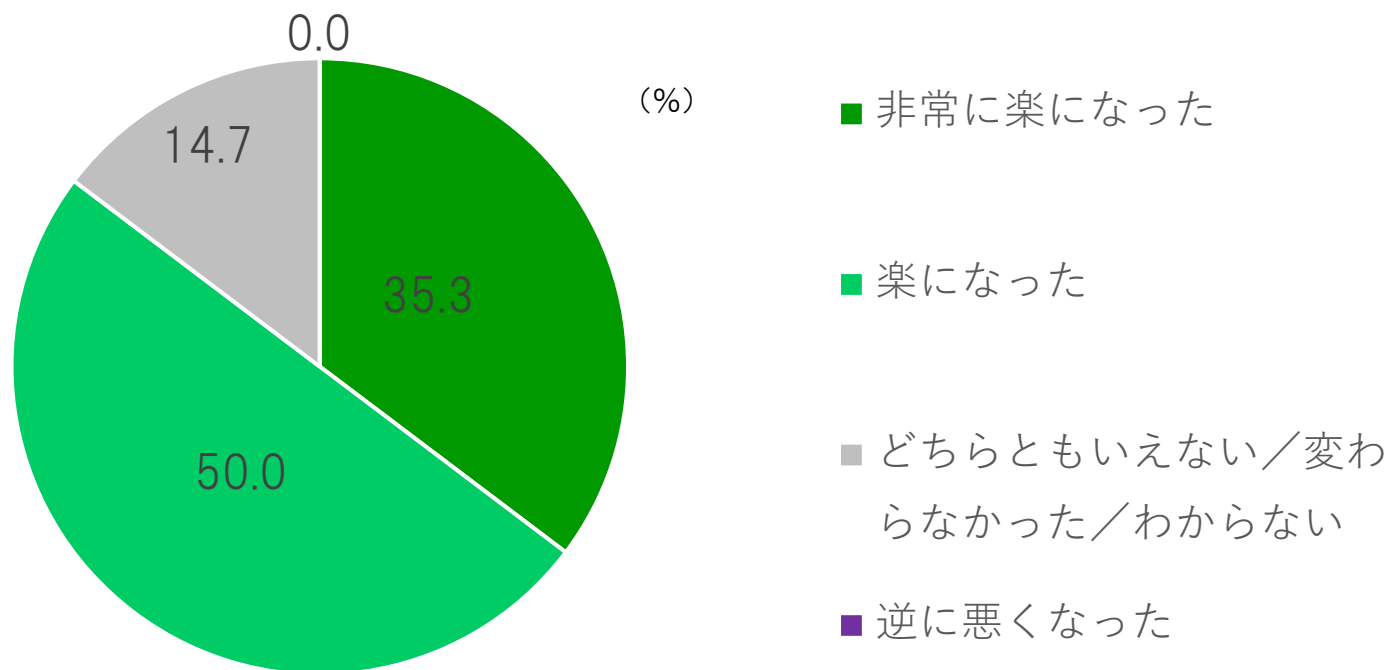
相談をした人の44.2%については、何らかの支援を受けることとなった。

相談をして、何らかの支援を受けることになりましたか？  
(相談を実際に受けた人:77名が対象)



実際に支援を受けた34名については、その8割以上が生活が楽になったと回答している。

支援を受けて生活は楽になりましたか？あれはまるものをお選びください。  
(相談して、支援を受けた人:34名が対象)



# こども宅食利用家庭に関する調査報告書



一般社団法人こども宅食応援団

(事務局：認定NPO法人フローレンス)

担当：新海・小柳

メールアドレス：info@hiromare-takushoku.jp